資料1

これまでの振り返り

令和8年10月20日(火)
熊本市環境局

1. 地下水（1）PFOS・PFOA指針値超過への対応経緯

令和4年度に定点監視井戸39地点でPFOS・PFOA調査を実施し、2地点（植木地区・白川地区）で指針値超過を確認したため、周辺地区調査や飲用井戸調査を実施した。令和7年2月からは「熊本市有機フッ素化合物対策専門家会議」を設置し、植木地区のPFOS・PFOA汚染の原因究明に向けた調査・審議を開始した。

年度	地下水
令和4年度	● 定点監視井戸39地点でPFOS・PFOA調査 → 2地点（植木地区・白川地区）で指針値超過を確認
令和5年度	● 2地点（植木地区・白川地区）の周辺地区調査（500m） → 新たに植木地区21地点、白川地区1地点※の指針値超過を確認　※ 後に廃止 ● 市内全域の飲用井戸（希望者）の調査を開始
令和6年度	● R7.1までに516地点調査、55地点（主に植木地区）の指針値超過を確認 ● 汚染原因究明に向けたヒアリング調査等 「熊本市有機フッ素化合物対策専門家会議」の設置 （R7.2.1～R8.1.31） （発生原因の調査や対策に必要な事項を審議するため）
令和7年度	● 植木地区の汚染原因調査（追加調査）

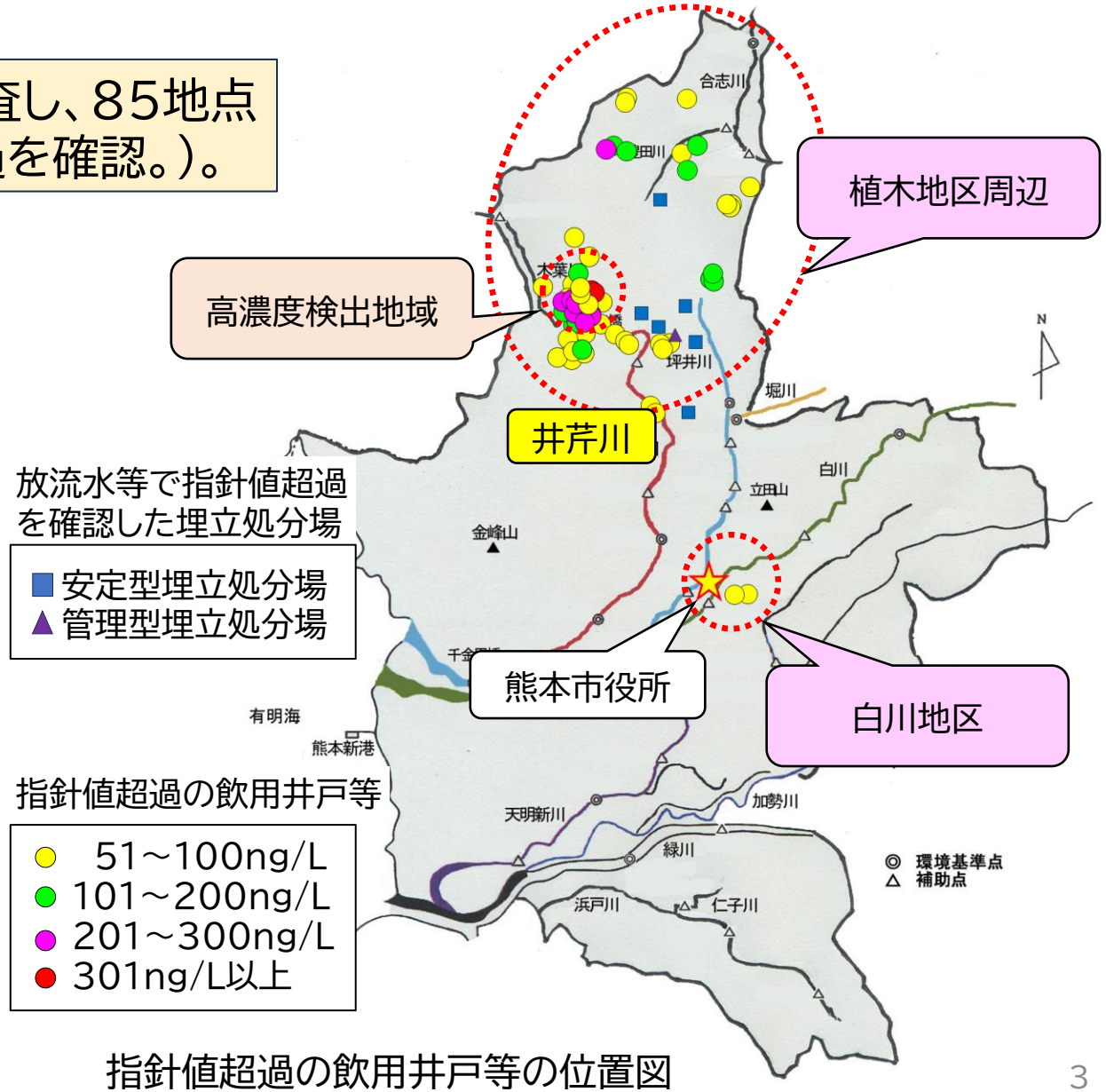
1. 地下水（2）これまでのPFOS・PFOA調査結果

地下水の調査結果

令和5年3月から令和7年12月までに757地点を調査し、85地点で指針値超過を確認（主に植木地区周辺で指針値超過を確認。）。

＜令和7年12月23日までのPFOS・PFOA調査結果＞

指針値 50ng/L との比較	濃度範囲 （ng/L）	件数 R5/3/15～ R7/12/23
指針値以下	50以下	672
指針値超過	51～100	57
	101～200	17
	201～300	8
	301～400	2
	401以上	1
	小計	85
合計		757



指針値超過の飲用井戸等の位置図

1. 地下水（3）主なPFOS・PFOA原因究明等の調査結果

① 高濃度検出地域の継続モニタリング

- ほとんどの地点で濃度の大きな変化はみられないが、一部地点で濃度の上昇や減少がみられる。
- 高濃度検出地域では、PFOAが検出されており、最大濃度は550ng/L（指針値50ng/L）である。

② 高濃度検出地域の水質解析

- 高濃度検出地域では、比較的浅い地下水（井戸深度60m未満）で局所的な指針値超過が点在している。
- 最大濃度地点は移動し難いPFOA直鎖体の比率が高く、近くに汚染源がある可能性が示唆される。
- 同地点の浅井戸（井戸深度55m・第1帯水層）と深井戸（井戸深度85m・第2帯水層）では浅井戸でのみ指針値超過が確認されている。ただし、帯水層のマーカーやPFOAのトレーサーとなる成分は確認できていない。

1. 地下水（4）第3回専門家会議のご意見と令和8年度以降の対応

第3回専門家会議のご意見

- PFOS・PFOAだけでなく、PFBS・PFBAなどの短鎖PFASを測定することが重要であり、測定項目を増やすことで、PFASの組成を用いた発生源の検討が期待できる。
- 高濃度検出地域のPFAS濃度と井戸深度を整理し、地表からの負荷や地下水中での挙動を検討すべき。
- 地点ごとの濃度差が大きいため、なぜ局所的に高濃度となっているのかを検討する必要がある。

令和8年度以降の対応

- 汚染原因の究明に向け、要調査項目に追加された短鎖PFAS等※の測定を実施する。
  ※ PFBS(4)・PFBA(4)・PFPeA(5)・PFHxA(6)・PFHpA(7)・PFNA(9)・HFPO-DA(※PFOA代替物質)
- 指針値超過井戸等の継続モニタリングの合理化並びに井戸水位及び井戸深度の詳細調査を実施する。
- 希望する市内の飲用井戸の調査を継続し、飲用防止対策を徹底する。
- 汚染の状況等を踏まえ、将来的な対応を検討していく。

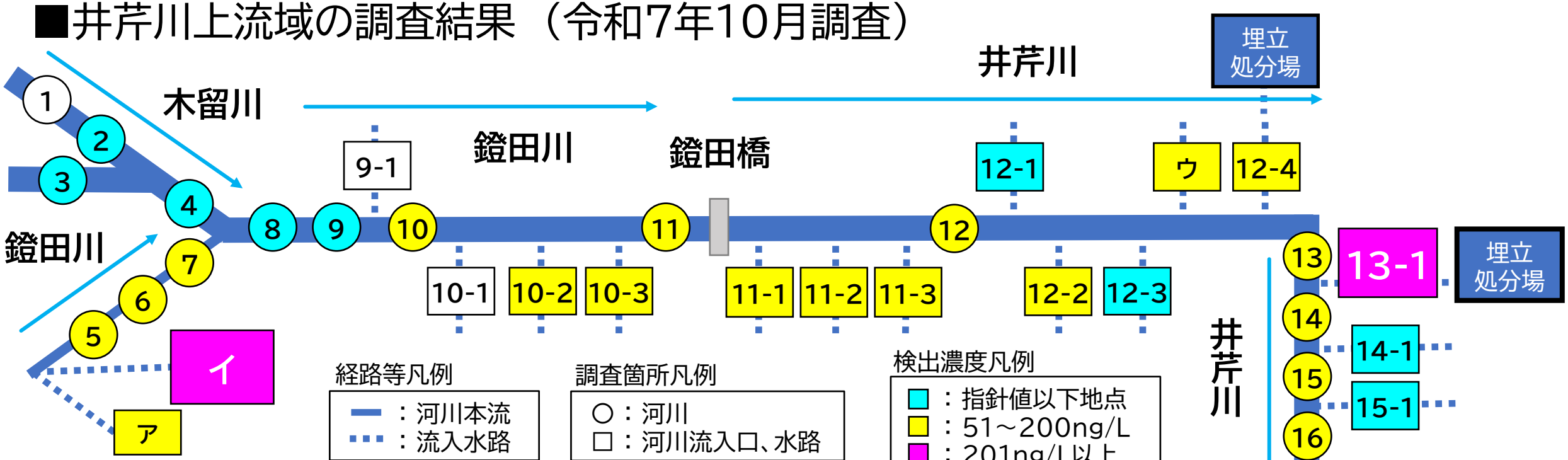
2. 公共用水域（1）PFOS・PFOA指針値超過への対応経緯

令和4年度に5河川の環境基準点等でPFOS・PFOAの調査を実施し、全地点で指針値を満足していたが、令和5年度に比較的濃度が高かった井芹川の追加調査を行い、井芹川上流域の指針値超過を確認した。さらに詳細調査を行い、複数の流入水路や埋立処分場からの放流水等で指針値超過を確認した。

年度	地下水
令和4年度	● 5河川（環境基準点等）でPFOS・PFOA調査 →全地点で指針値を満足
令和5年度	● 比較的濃度が高かった井芹川の追加調査 →井芹川上流域や流入水路で指針値超過を確認 →埋立処分場の放流水の指針値超過を確認
令和6年度	● 市内の民間埋立処分場の放流水等の調査 →放流水や観測井戸で指針値超過確認 「熊本市有機フッ素化合物対策専門家会議」の設置（R7.2.1～R8.1.31） （発生原因の調査や対策に必要な事項を審議するため）
令和7年度	● 環境省PFOS等対策実証事業の開始（埋立処分場） ● 井芹川上流域の汚染原因調査（追加調査）

2. 公共用水域（2）井芹川上流域のPFOS・PFOA調査結果

■井芹川上流域の調査結果（令和7年10月調査）



※ 上図の検出濃度凡例は令和7年10月23日の調査結果によるもの。
（令和7年度は4月22日、7月25日、10月23日、1月8日の計4回水質調査を実施。）

○ 各調査箇所のPFOS・PFOA濃度（ng/L）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
木留川				鐙田川							井芹川				
—	47	10	21	130	93	65	38	36	64	69	96	75	81	78	79

9-1
—

11-1	11-2	11-3
100	110	100

13-1	15-1
300	26

ア	イ
93	360

10-1	10-2	10-3
—	110	120

12-1	12-2	12-3	ウ	12-4
13	100	21	100	68

14-1
16

赤字：指針値50ng/L超過

2. 公共用水域（3）主なPFOS・PFOA原因究明等の調査結果

① 井芹川上流域の継続モニタリング

- 井芹川上流域では、一部の地点でPFOSが僅かに検出されているが、主にPFOAである。
- 井芹川上流域の本流や流入水路では、一部の流入水を除き、濃度はほぼ一定である。

② 井芹川上流域（地点13-1）の流入水調査

- 埋立処分場の放流水で最大660ng/Lの指針値超過が確認されており、井芹川上流域の指針値超過の一因となっている。
- 埋立処分場の放流水対策として、埋立区域外からの雨水の流入水対策や処理施設の整備による対策（環境省実証事業）を実施している。

③ 井芹川上流域（地点イ）の流入水調査

- 比較的高濃度である地点イ（湧水）については、地表からの汚染が考えられるが、上流域の山地において汚染源の特定はできていない。

2. 公共用水域（4）第3回専門家会議のご意見と令和8年度以降の対応

第3回専門家会議のご意見

- 地下水と同様に、PFOS・PFOAだけでなく、PFBS・PFBAなどの短鎖PFASを測定することが重要であり、測定項目を増やすことで、PFASの組成を用いた発生源の検討が期待できる。
- 河川については濃度だけでなく流量を把握し、PFASの流入・移動を総量で評価することが重要である。

令和8年度以降の対応

- 汚染原因の究明に向け、要調査項目に追加された短鎖PFAS等※の測定を実施する。
  ※ PFBS(4)・PFBA(4)・PFPeA(5)・PFHxA(6)・PFHpA(7)・PFNA(9)・HFPO-DA(※PFOA代替物質)
- 指針値超過地点の継続モニタリングの合理化並びに河川及び流入水等の流量調査を実施する。
- 埋立処分場については、現在実施している対策を継続し、効果の把握を行う。
- 汚染の状況等を踏まえ、将来的な対応を検討していく。

3. 埋立処分場（1）埋立処分場に係る対応の方向性

＜PFAS対策の目標濃度＞
法令上の基準がないことから国が方針等を示すまで、以下のいずれかに適合するよう対策を行う。
■ 河川への流入口において指針値を下回る。
■ 敷地外への放流地点で指針値の10倍を下回る。
※ 今後、埋立処分場以外の事業所から指針値を超えるPFASが検出された場合も同様に取り扱う。

＜具体的な対策＞
1 キャッピングなどによる流入水（雨水及び区域外からの流入水）対策
対象処分場：寿徳開発（株）（滴水、山本）、（有）三大理研工学、（株）前田環境クリーン
（放流水のPFAS濃度が指針値の10倍程度までの処分場）
※ 埋立処分場から流れ出る放流水の水量を減らすことで河川に流れ込むPFASを低減する。
※ 廃棄物層を浸透する雨水等の量が減り、地下に浸透するPFASを含む水の量も低減されるため、観測井戸で指針値を超えている処分場の対策にもつながる。

2 処理施設の整備による対策
対象処分場：（株）八木運送
（放流水のPFAS濃度が指針値の10倍を大きく上回る処分場）
※ 放流水を活性炭吸着や膜ろ過などの水処理を行い、PFAS濃度を下げることで河川に流れ込むPFASを低減する。

3. 埋立処分場（2）第3回専門家会議のご意見と令和8年度以降の対応

第3回専門家会議のご意見

- 対策の効果を判断するためには、モニタリングの継続が重要である。
- 流入水対策工事の効果を判定するため、以下のデータを取得することが望ましい。
  1　対策工事にて敷設した側溝を流れる水のPFAS濃度。
  2　対策工事にて敷設した側溝に流れ込む雨水の量。
- 管理型処分場における活性炭処理に関して、破過タイミングやそこに至る通水量、交換や再生に要するコスト等、情報収集が重要である。

令和8年度以降の対応

- 現在実施している対策とモニタリングを継続し、効果の把握を行う。
- 対策工事にて敷設した側溝を活用し、新たなデータの取得を行う。
- 管理型処分場における活性炭処理に関する情報収集を行う。

資料2

公開用

埋立処分場の継続監視結果と対策の進捗状況について

令和8年10月20日(火)

熊本市環境局

① 埋立処分場の継続監視結果について

埋立処分場の位置図

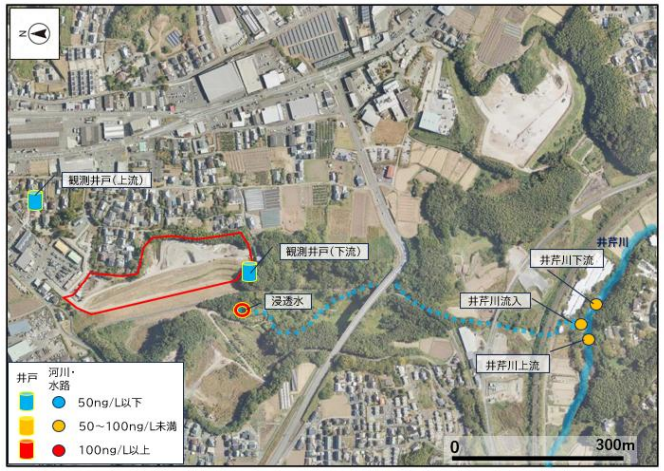

N
坪井川
大建工業(株)
大東商事(株)
(株)前田環境クリーン
(有)オー・エス収集センター
(有)三大理研工学
寿徳開発(株)(山本)
北区役所
国道3号
(株)八木運送
寿徳開発(株)(滴水)
井芹川
豊田川
植木駅
0
500m
1km

1） 寿徳開発(株)(滴水処分場)【井芹川】

■水質調査記録

		令和6年度				令和7年度								令和8年度			
		R6.8.8	R6.9.25	R6.11.6	R7.2.3	R7.4.22	R7.6.23	R7.7.25	R7.8.25	R7.10.23	R7.12.17	R8.1.8	R8.2.26	R8.4.21	R8.6.22	R8.7.22	R8.8.17
浸透水	PFOS・PFOA		600		230	230		750		330		210		350		500	
	PFOS		99		33	27		120		36		28		48		59	
	PFOA		510		200	200		620		290		180		300		440	
観測井戸（上流）	PFOS・PFOA	4未満			4未満	4未満		4未満		4未満		4未満		4未満		4未満	
	PFOS	2未満			2未満	2未満		2未満		2未満		2未満		2未満		2未満	
	PFOA	2未満			2未満	2未満		2未満		2未満		2未満		2未満		2未満	
観測井戸（下流）	PFOS・PFOA	10			8	7		15		12		9		10		7	
	PFOS	2			2	2		4		2		3		2		2未満	
	PFOA	8			5	5		11		10		6		8		5	
井芹川上流	PFOS・PFOA	67		79	76	75		84		84		77		88		75	
	PFOS	2未満		2未満	2未満	2未満		2		2未満		2未満		2未満		2未満	
	PFOA	65		77	74	73		81		82		75		86		73	
井芹川流入	PFOS・PFOA	85	100	150	66	64		85		68		62		63		100	
	PFOS	7	8	17	7	4		5		5		5		4		7	
	PFOA	78	92	130	59	59		80		62		57		59		100	
井芹川下流	PFOS・PFOA	70		81	72	81		78		78		77		92		84	
	PFOS	2		3	2未満	2未満		2未満		2未満		2未満		7		2	
	PFOA	68		78	70	79		76		76		75		85		82	
流量(t/日)	浸透水				202	190	327	229	246	187	173	167	149	183	204	264	204

■全体図



河川までの距離 約660m

【PFOS・PFOAについて】
・浸透水は、210ng/Lから750ng/Lで推移。(令和7年度)
・井芹川流入地点は、62ng/Lから85ng/Lで推移。(令和7年度)
・春と冬は井芹川流入地点より上流地点の方が濃度が高い。

2） 寿徳開発(株)(山本処分場)【豊田川】

■水質調査記録

		令和6年度				令和7年度								令和8年度			
		R6.8.8	R6.9.26	R6.11.6	R7.2.3	R7.4.22	R7.6.23	R7.7.25	R7.8.25	R7.10.23	R7.12.17	R8.1.8	R8.2.26	R8.4.21	R8.6.22	R8.7.22	R8.8.17
浸透水	PFOS・PFOA		300	270	380	580		430		410		380		360		330	
	PFOS		70	54	74	82		81		79		77		73		78	
	PFOA		230	210	310	500		350		330		300		290		250	
観測井戸(深井戸)	PFOS・PFOA	20			21	24		20		21		22		24		24	
	PFOS	2未満			2未満	2未満		2未満		2未満		2		2未満		2	
	PFOA	18			19	22		18		19		22		22		22	
観測井戸(浅井戸)	PFOS・PFOA	140	200		260	270		240		280		260		300		220	
	PFOS	36	53		52	52		55		49		47		55		41	
	PFOA	100	150		200	220		180		230		210		250		180	
調整池横の水路	PFOS・PFOA		460							490		310		370		510	
	PFOS		86							78		49		67		89	
	PFOA		380							410		260		300		420	
調整池出口	PFOS・PFOA		270					300		470		410		300		270	
	PFOS		66					68		94		81		66		61	
	PFOA		200					240		370		330		230		200	
豊田川上流	PFOS・PFOA	26		20	21	21		26		25		23		23		36	
	PFOS	2未満		2未満	2未満	2未満		2未満		2未満		2未満		2未満		2	
	PFOA	24		18	19	19		24		23		21		21		34	
豊田川流入	PFOS・PFOA	140	140	150	73	100		150		130		78		100		180	
	PFOS	32	23	25	11	16		27		20		10		19		27	
	PFOA	110	110	120	61	83		120		110		67		83		150	
豊田川下流	PFOS・PFOA	47		26	23	31		73		41		25		28		78	
	PFOS	5		2	2未満	3		10		7		2未満		2未満		8	
	PFOA	42		23	21	28		63		33		23		26		69	
流量(t/日)	調整池横水路					268	478	109	260	125	95	76	56	75	362	295	127
	浸透水(調整池出口)				34	36	44	26	36	31	24	25	28	19	38	31	24

■全体図



河川までの距離 約460m

【PFOS・PFOAについて】
・浸透水は、380ng/Lから580ng/Lで推移。(令和7年度)
・下流側の観測井戸(浅井戸)は、240ng/Lから280ng/Lで推移。(令和7年度)
・豊田川流入は、78ng/Lから150ng/Lで推移。(令和7年度)
・埋立処分場の影響のため、豊田川の上流地点より下流地点の濃度が高い状態が続いている。

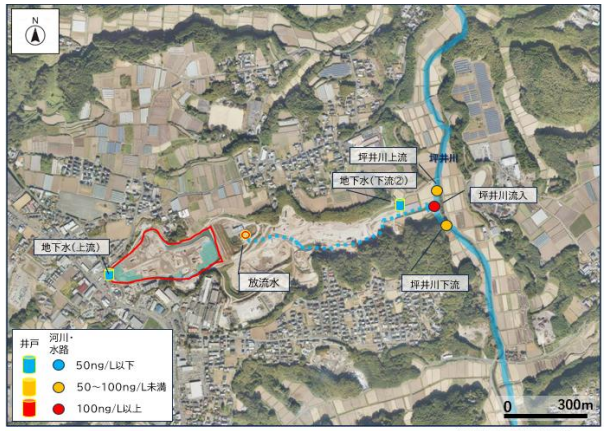
3）（株）オー・エス収集センター【坪井川】

■水質調査記録

		令和6年度				令和7年度				令和8年度	
		R6.8.8	R6.8.28	R6.11.7	R7.2.21	R7.4.25	R7.7.28	R7.11.5	R8.3.10	R8.4.24	R8.7.21
放流水	PFOS・PFOA				120	100	340	340	280	400	520
	PFOS				21	17	75	72	50	100	110
	PFOA				100	90	270	260	230	300	410
観測井戸（上流）	PFOS・PFOA	4未満			28	48	4未満	4	4未満	4未満	4
	PFOS	2未満			10	16	2未満	2未満	2未満	2未満	2未満
	PFOA	2未満			17	32	2未満	2	2未満	2未満	2
観測井戸（下流②）	PFOS・PFOA	4未満			4未満	4	4	4	4未満	4未満	4未満
	PFOS	2未満			2未満	2	2未満	2	2未満	2未満	2未満
	PFOA	2未満			2未満	2未満	2	2	2未満	2未満	2未満
坪井川上流	PFOS・PFOA	73	44	78	30	31	39	38	28	29	54
	PFOS	22	5	12	2未満	2未満	4	5	2未満	4	7
	PFOA	50	38	66	2未満	2未満	34	32	26	24	46
坪井川流入	PFOS・PFOA	36	230	19	31	34	120	110	88	72	160
	PFOS	9	50	5	5	7	18	32	12	18	29
	PFOA	27	180	14	26	27	100	82	76	54	130
坪井川下流	PFOS・PFOA	36	89	40	33	27	72	53	56	42	92
	PFOS	5	17	8	4	3	12	8	7	8	15
	PFOA	31	71	31	28	24	60	45	48	33	77

排水処理施設の稼働状況	未稼働時	稼働時
	活性炭未処理	活性炭処理

■全体図



河川までの距離 約720m

【PFOS・PFOAについて】
・放流水は、100ng/Lから340ng/Lで推移。（令和7年度）
・井芹川流入地点は、活性炭で処理後は、34ng/Lから120ng/Lで推移。（令和7年度）
・活性炭処理による一定の効果は確認されている。

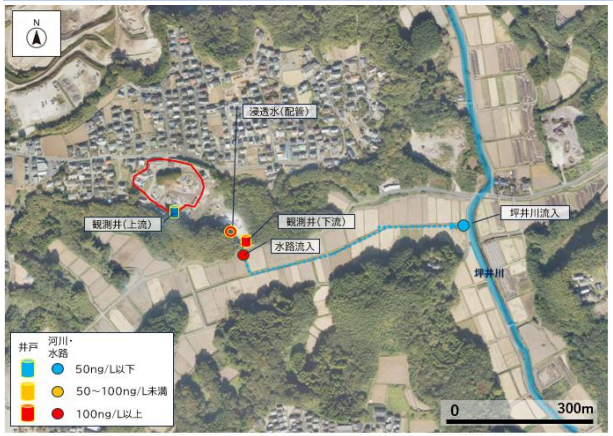
4） 大東商事(株)【坪井川】

■水質調査記録

		令和6年度				令和7年度								令和8年度			
		R6.8.9	R6.9.30	R6.11.7	R7.2.3	R7.4.23	R7.6.23	R7.7.24	R7.8.25	R7.10.22	R7.12.17	R8.1.7	R8.2.26	R8.4.20	R8.6.22	R8.7.21	R8.8.17
浸透水	PFOS・PFOA		180	160	220	160		150		38		76		100		150	
	PFOS		49	47	51	47		34		7		17		28		35	
	PFOA		130	120	170	110		120		30		59		78		120	
水路流入	PFOS・PFOA		330	340	140	270		290		120		83		210		480	
	PFOS		120	110	33	83		73		35		15		58		130	
	PFOA		210	230	110	180		220		91		67		150		340	
観測井戸（上流）	PFOS・PFOA	4未満			4未満	4未満		4未満		4未満		4未満		4未満		4未満	
	PFOS	2未満			2未満	2未満		2未満		2未満		2未満		2未満		2未満	
	PFOA	2未満			2未満	2未満		2未満		2未満		2未満		2未満		2未満	
観測井戸（下流）	PFOS・PFOA	650	660	750	460	530		730		530		340※		590		890	
	PFOS	290	260	370	57	170		310		130		41		180		430	
	PFOA	360	400	370	400	360		410		390		290		400		450	
坪井川上流	PFOS・PFOA	29		25	19	18		30		27		21					
	PFOS	3		3	2未満	2未満		4		2		2未満					
	PFOA	26		22	17	16		26		25		19					
坪井川流入	PFOS・PFOA	28	18	27	15	23		18		17		11		15		36	
	PFOS	5	3	9	3	6		3		4		2未満		4		10	
	PFOA	22	14	18	12	16		14		13		9		11		26	
坪井川下流	PFOS・PFOA	23		28	18	18		27		24		21					
	PFOS	9		4	2未満	2未満		3		2		2未満					
	PFOA	14		23	16	16		23		21		19					
流量(t/日)	浸透水				5.8	5.4	19	3.2	9.6	6.1	4.3	2.3	5.0	9.1	5.2	13	3.4

※観測井戸(下流)R8.2.19採水

■全体図



河川までの距離 約520m

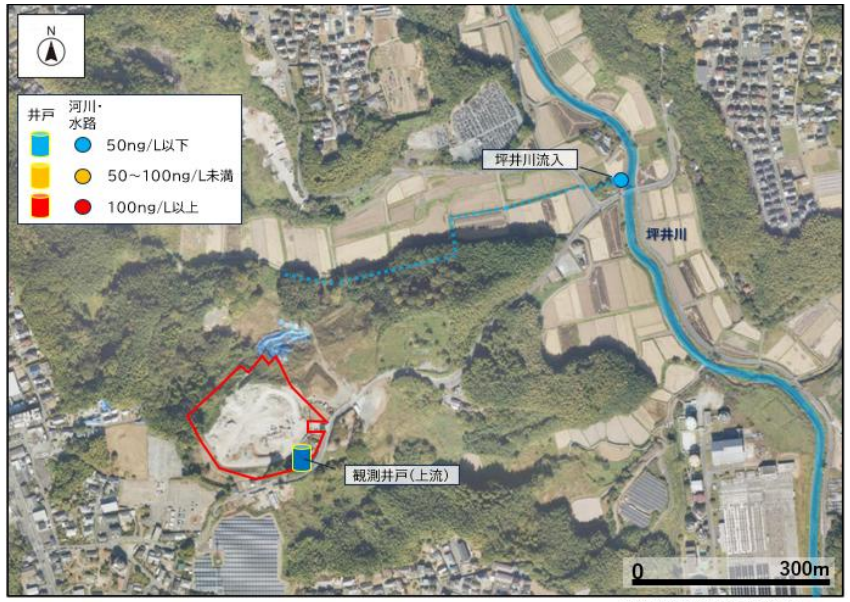
【PFOS・PFOAについて】
・浸透水は、38ng/Lから160ng/Lで推移。(令和7年度)
・下流側の観測井戸は、340ng/Lから730ng/Lで推移している。(令和7年度)
・下流側の観測井戸は夏に高くなる傾向がある。
・坪井川流入地点は、50ng/L以下が維持されている。

5）（株)大建工業【坪井川】

■水質調査記録

		R6.8.9	R7.2.3	R7.4.23	R7.7.24	R7.10.22	R8.1.7	R8.4.20	R8.7.21
浸透水	PFOS・PFOA	未測定	未測定	未測定	未測定	未測定	未測定	未測定	未測定
	PFOS								
	PFOA								
観測井戸（上流）	PFOS・PFOA	5	5	5	5	5	5	6	5
	PFOS	2未満	2未満	2未満	2未満	2未満	2未満	2未満	2未満
	PFOA	3	3	3	3	3	3	4	3
坪井川流入	PFOS・PFOA	21	8	10	23	19	5	5	35
	PFOS	9	3	2	9	8	2未満	2	15
	PFOA	12	4	7	14	11	3	3	19

■全体図



河川までの距離　約580m

【PFOS・PFOAについて】
・坪井川流入地点は、50ng/L以下が維持されている。

② 側溝のPFOS、PFOA調査ついて

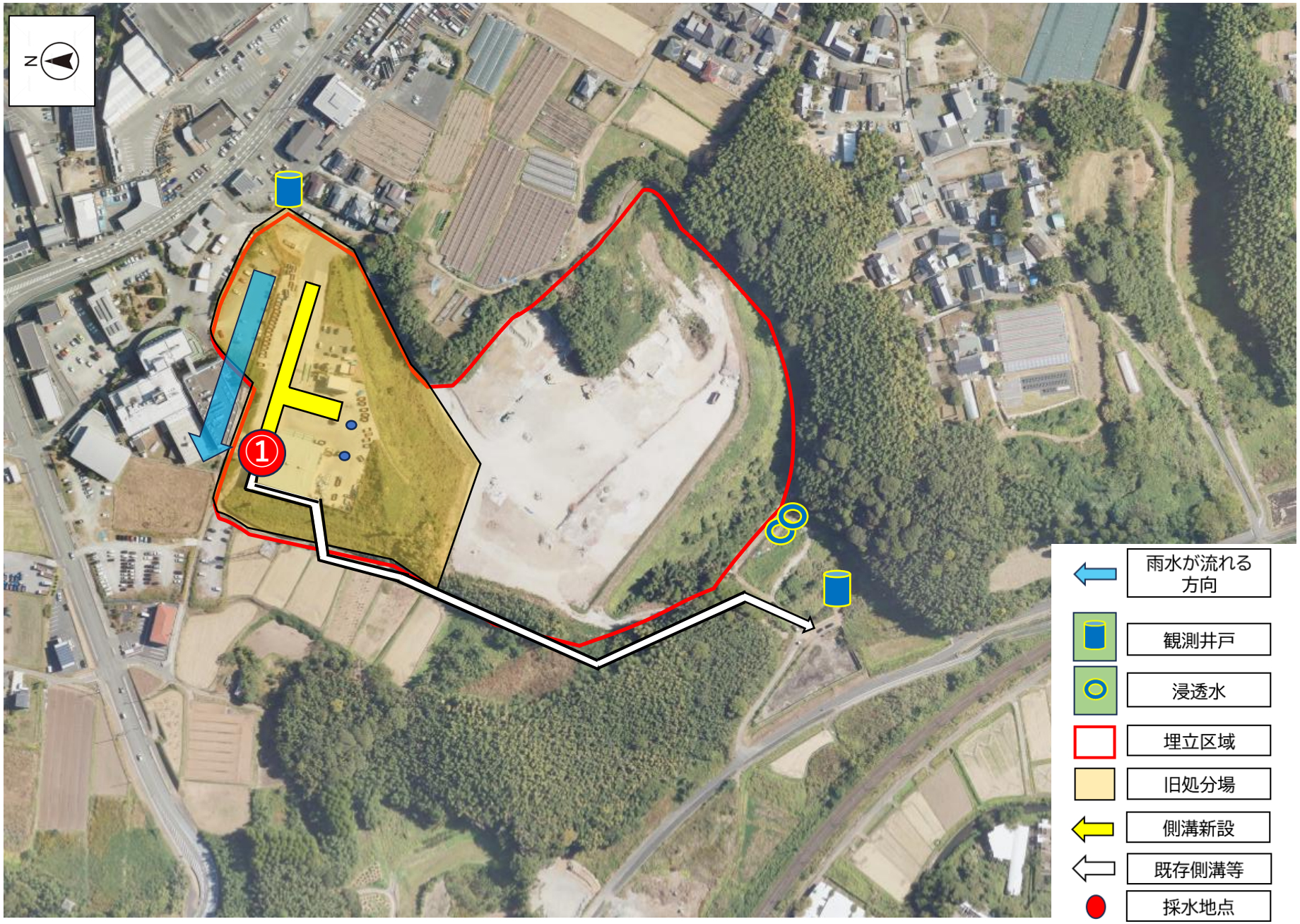
1）（株）八木運送（旧処分場） 採水日：令和8年6月19日

■分析結果

①採水ポイント
PFOS/PFOA：5ng/L
（PFOS：2ng/L未満）
（PFOA：3ng/L）

■所見

・PFOS/PFOAが指針値以下であることを確認した。



2）（有）三大理研工学　採水日：令和8年6月19日

■分析結果

①採水ポイント
PFOS/PFOA：4ng/L
（PFOS：2ng/L未満）
（PFOA：2ng/L）

②採水ポイント
PFOS/PFOA：6ng/L
（PFOS：2ng/L）
（PFOA：4ng/L）

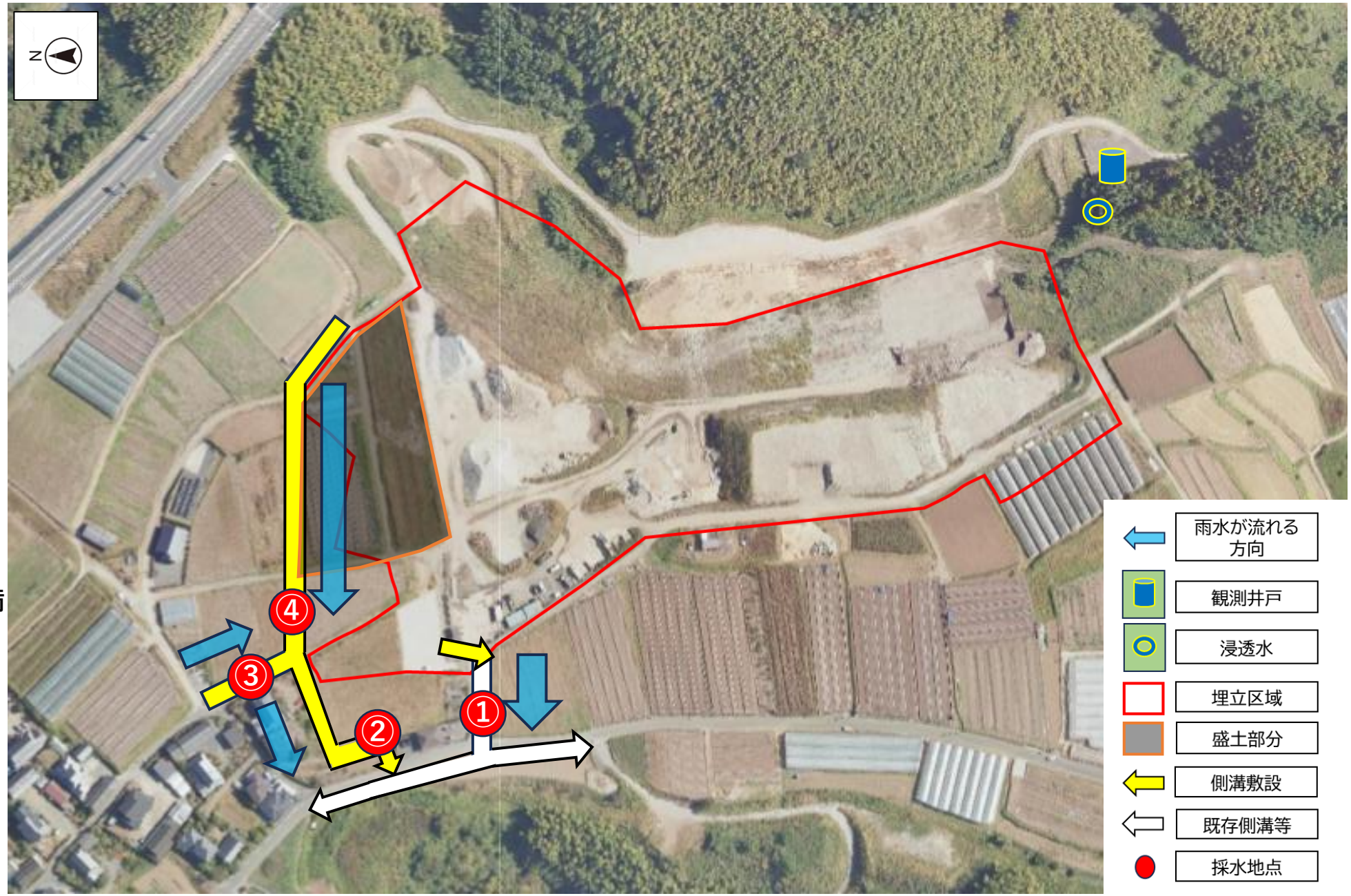
③採水ポイント
PFOS/PFOA：5ng/L
（PFOS：2ng/L未満）
（PFOA：3ng/L）

④採水ポイント
PFOS/PFOA：17ng/L
（PFOS：6ng/L）
（PFOA：11ng/L）

【参考：雨水の分析結果】
PFOS/PFOA：4ng/L未満
（PFOS：2ng/L未満）
（PFOA：2ng/L未満）

■所見

・すべての地点（4か所）で指針値以下を確認した。
・同日に直接雨水を採取分析し、指針値以下を確認した。



3）（株)前田環境クリーン　採水日：令和8年6月19日

■分析結果

①採水ポイント
PFOS/PFOA：86ng/L
（PFOS：78ng/L）
（PFOA：8ng/L）

②採水ポイント
PFOS/PFOA：4ng/L
（PFOS：2ng/L）
（PFOA：2ng/L）

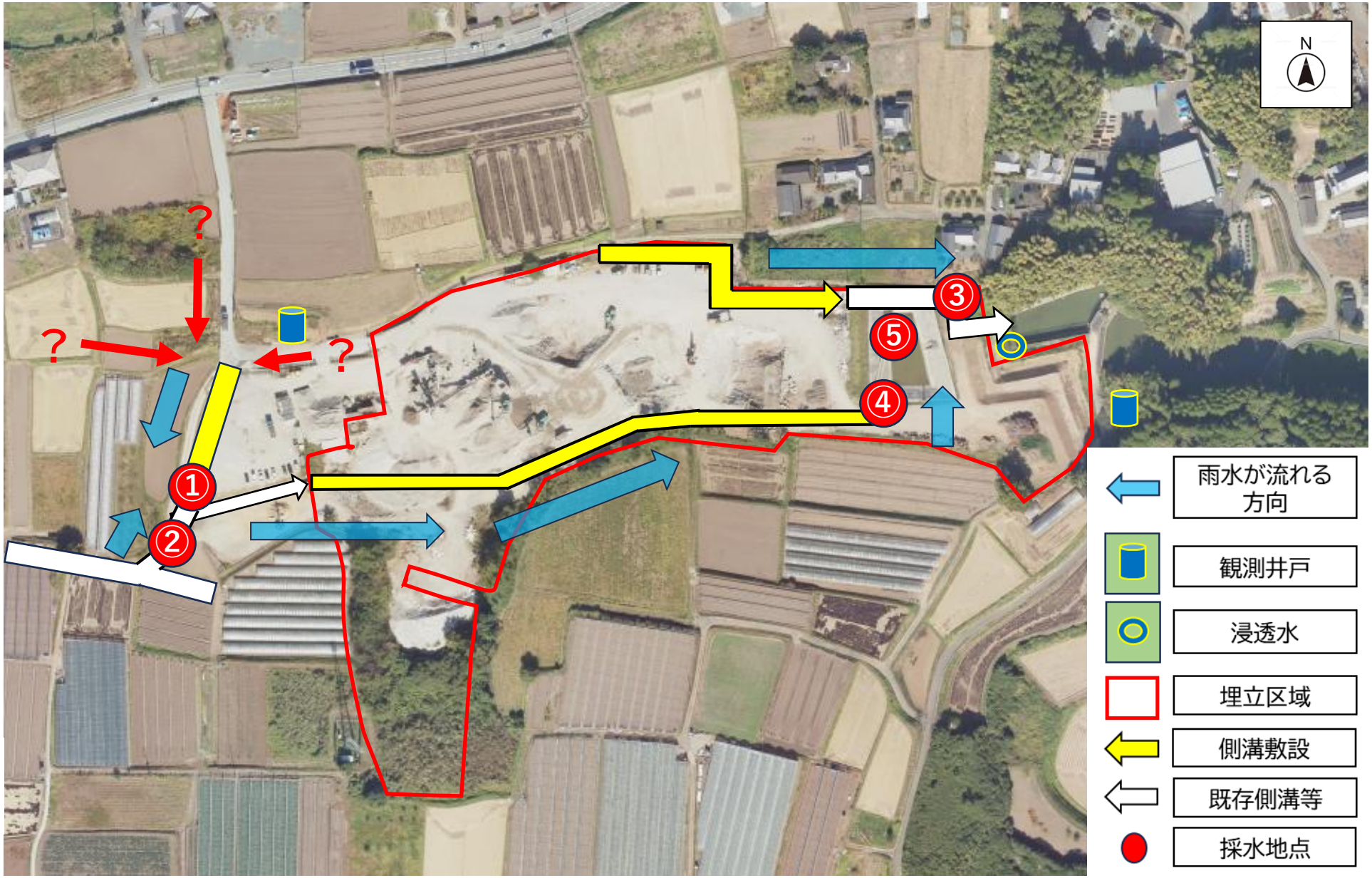
③採水ポイント
PFOS/PFOA：28ng/L
（PFOS：6ng/L）
（PFOA：22ng/L）

④採水ポイント
PFOS/PFOA：28ng/L
（PFOS：24ng/L）
（PFOA：4ng/L）

⑤採水ポイント
PFOS/PFOA：30ng/L
（PFOS：14ng/L）
（PFOA：15ng/L）

■所見

・①でPFOSが指針値超過。
・①の前に複数の雨水の流れ込みがあるため、今後調査予定。



③ 環境省の実証事業の進捗状況について

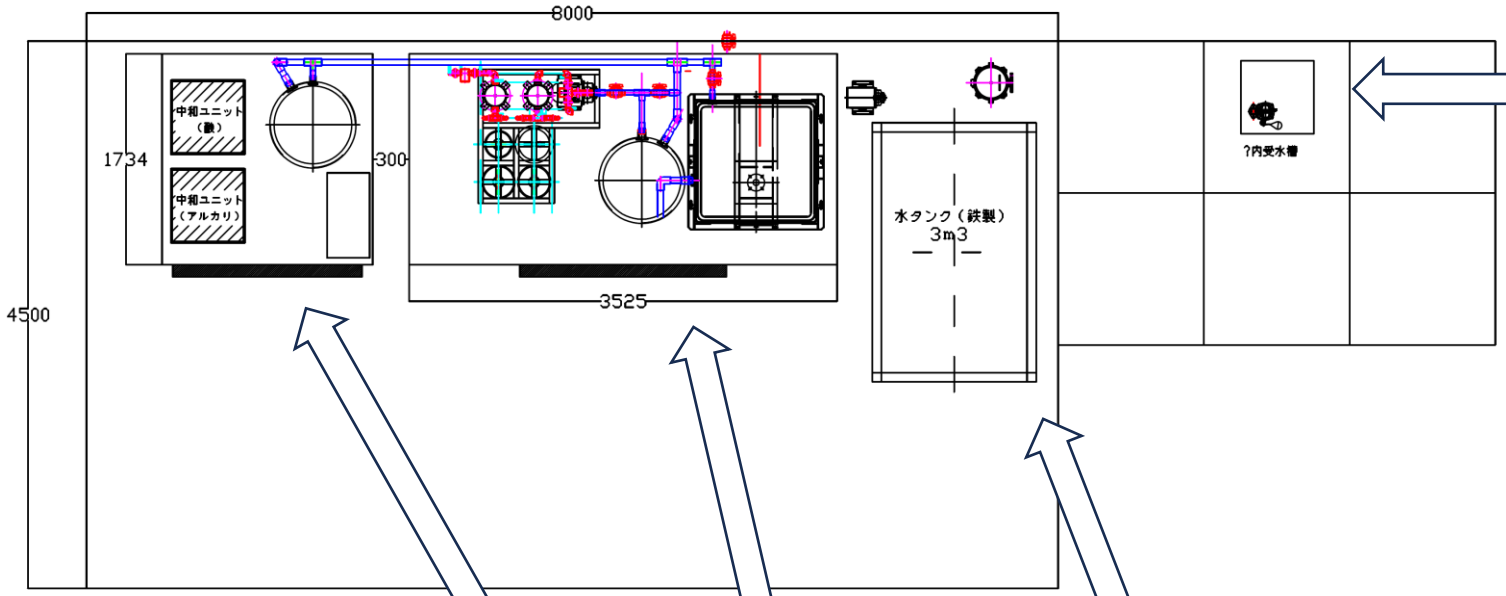
PFOS等の濃度低減のための対策技術の実証事業（環境省）

【令和7年度実証事業】
処理方法：イオン交換樹脂による除去
実施事業者：（株）奥村組
実証事業の結果
- PFOS、PFOAを含む排水に対して、処理水中のPFOS＋PFOA 濃度を50 ng/L 未満まで低減可能
- 採用した汎用樹脂は、コスト・供給安定性・調達性の面で優れている。
- 処理過程における、カルシウムの樹脂閉塞の抑制（①）やイオン交換樹脂の再生利用の検討（②）、汎用樹脂の限界の見極め（③）が必要

（環境省「PFOS等の濃度低減のための対策技術集」を参照）

【令和8年度実証事業】
処理方法：イオン交換樹脂による除去
実施事業者：（株）奥村組（令和8年5月採択）
実証事業の改善点
① カルシウムスケール対策技術の確立
② イオン交換樹脂の再生技術
③ 吸光光度法を利用したイオン交換樹脂の交換時期の把握

試験設備









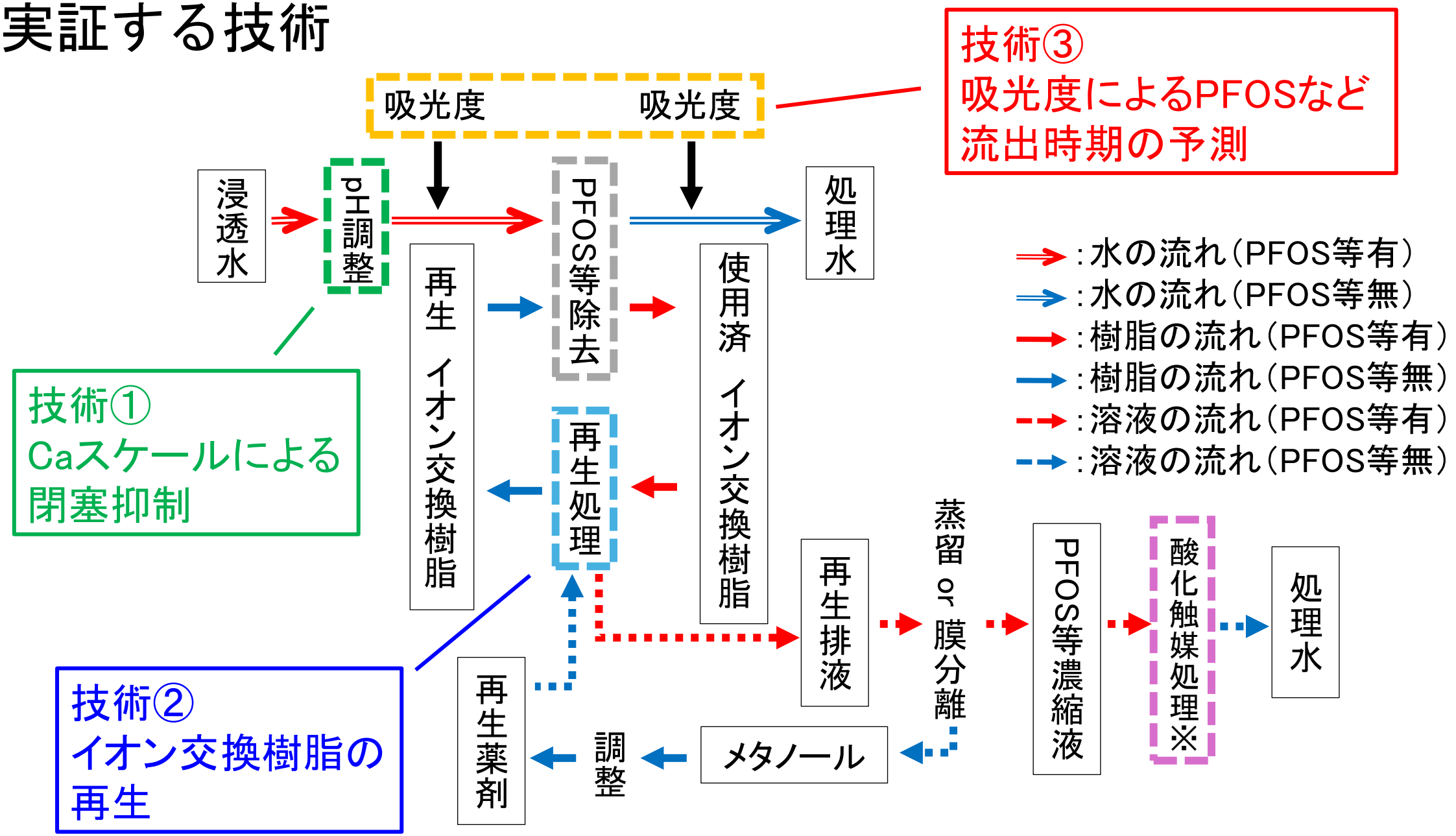
除去装置



令和8年8月3日　装置設置完了
8月5日　通水開始

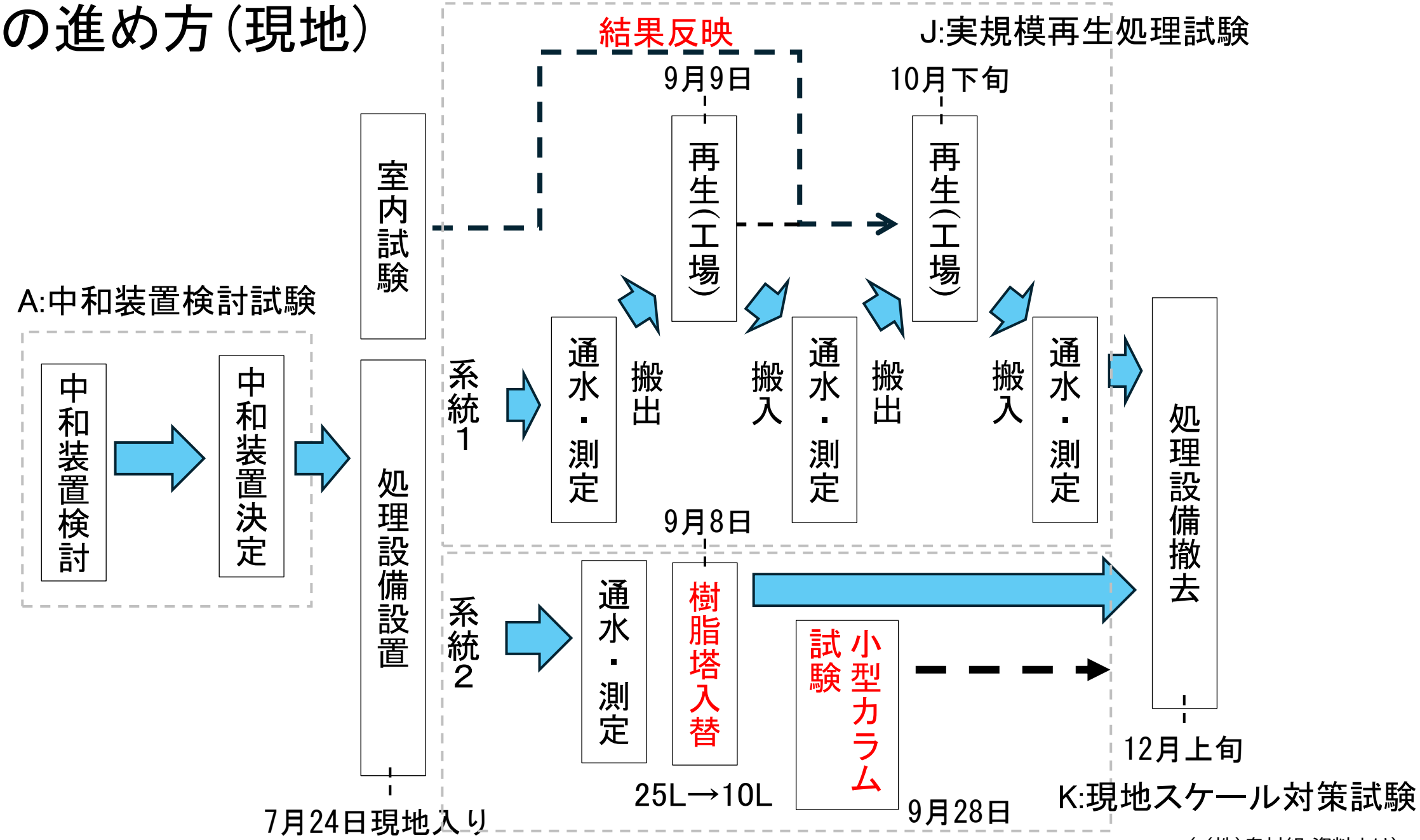
（（株)奥村組 資料より）

実証する技術



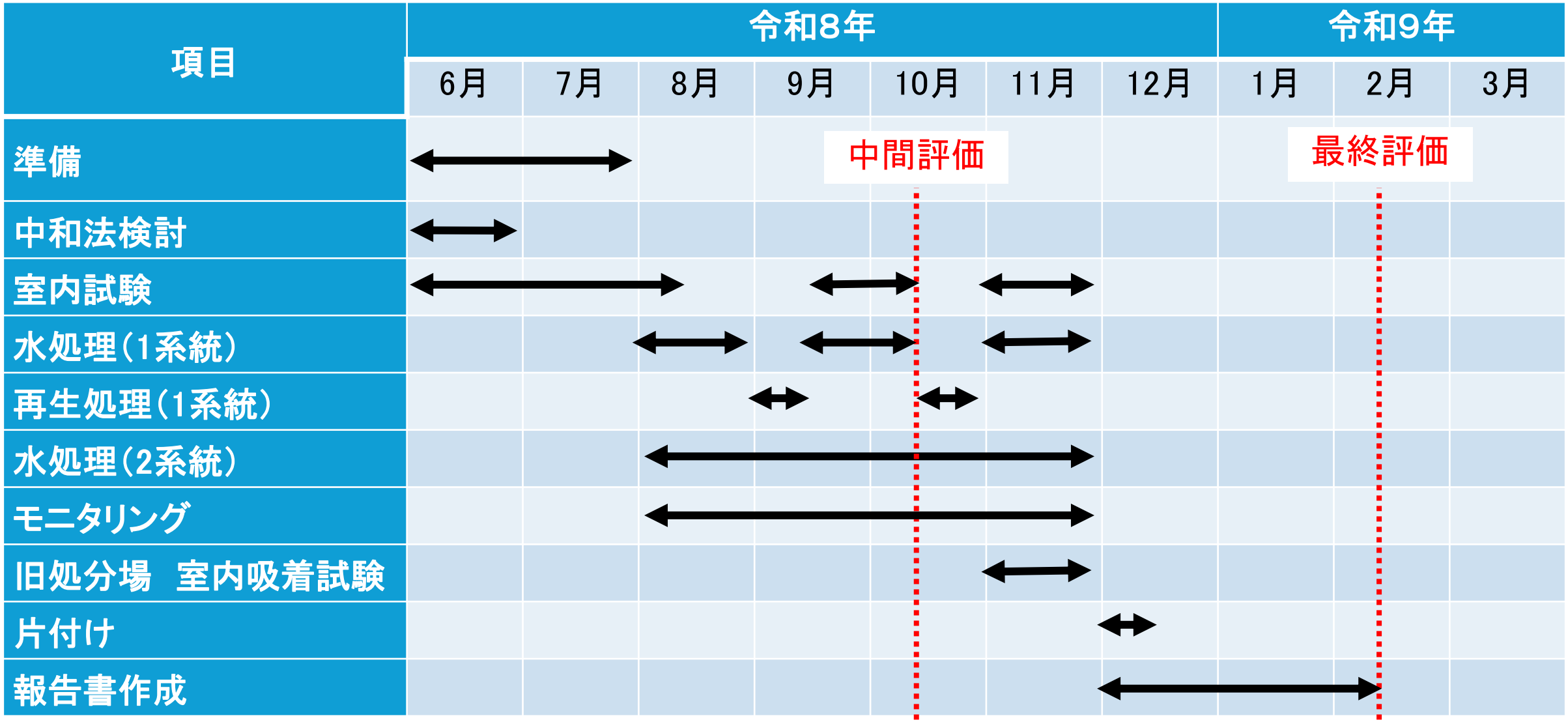
（（株)奥村組 資料より）

試験の進め方（現地）



（（株）奥村組 資料より）

工程（予定）



（（株）奥村組 資料より）

資料3

公開用

地下水及び公共用水域における継続調査結果について

令和8年10月20日(火)

熊本市環境局

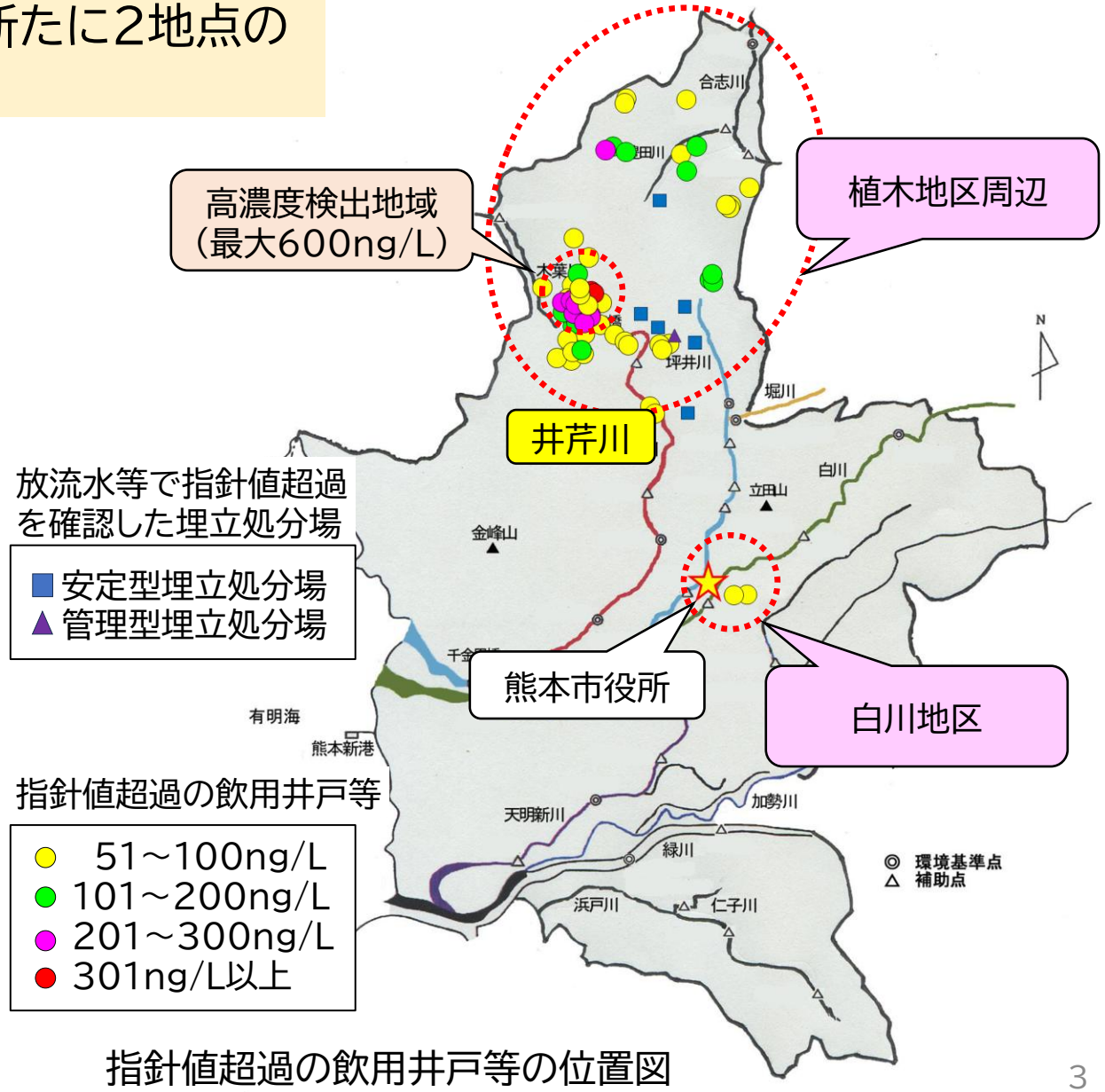
1. 地下水の継続調査結果

1. 地下水 （1）調査結果の概要

- 前回報告時（令和7年12月23日までの調査）から新たに2地点の指針値超過を確認（植木地区）。

■ 地下水のPFOS・PFOA調査結果集計

指針値（50ng/L）との比較	PFOS・PFOA濃度範囲（ng/L）	件数 R5/3/15～R8/9/30	件数 R7/12/23～R8/9/30
指針値以下	50以下	712	40
指針値超過	51～100	57	0
	101～200	19	2
	201～300	8	0
	301～400	2	0
	401以上	1	0
	小計	87	2
合計		799	42



指針値超過の飲用井戸等の位置図

1. 地下水 （2）継続モニタリング

■ 令和8年度の継続モニタリングについて

令和7年度までに、PFOS・PFOAの指針値超過地点の周辺調査や原因究明調査、市民希望による飲用井戸の水質検査等により、概ねの汚染範囲や濃度の傾向を把握できたことから、令和8年度からは「調査地点数」・「調査頻度」・「調査項目」を整理してモニタリングを実施。

＜令和7年度まで＞

- 調査地点数 ： 80地点程度
- 調査頻度 ： 2か月に1回（年に6回）
- 調査項目 ： PFOS・PFOA・PFHxS・イオン成分 等

＜令和8年度から＞

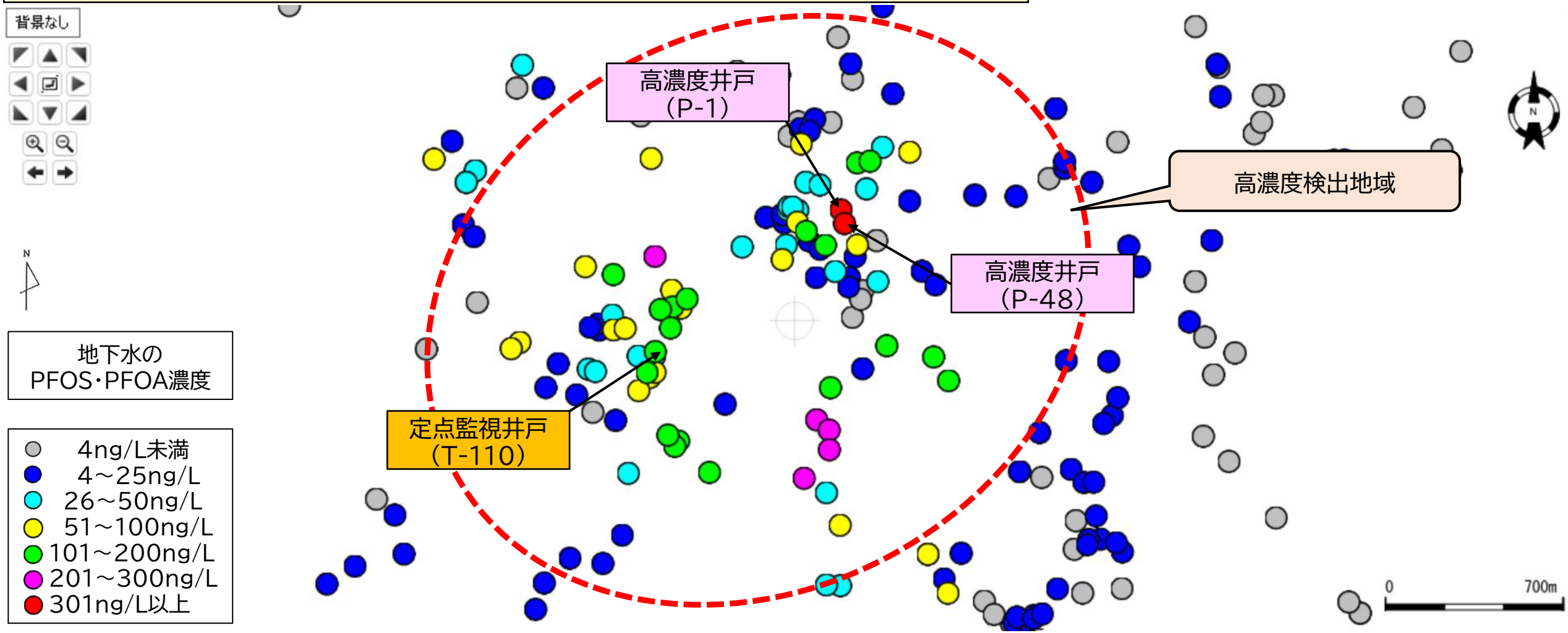
- 調査地点数 ： 55地点程度 （指針値超過地点50地点程度＋指針値以下地点5地点程度）
- 調査頻度 ： 3か月に1回（年に4回）
- 調査項目 ： PFOS・PFOA・PFHxS・**要調査項目PFAS7物質（※）**・イオン成分 等

※ PFBS(4)・PFBA(4)・PFPeA(5)・PFHxA(6)・PFHpA(7)・PFNA(9)・HFPO-DA(PFOAの代替物質)

1. 地下水 （2）継続モニタリング【高濃度検出地域】

■ 高濃度検出地域のPFOS・PFOA濃度変動（前回（令和7年12月）調査まで）

※ 個人所有井戸の詳細な位置情報は、熊本市情報公開条例第7条第2号に該当するため非公開

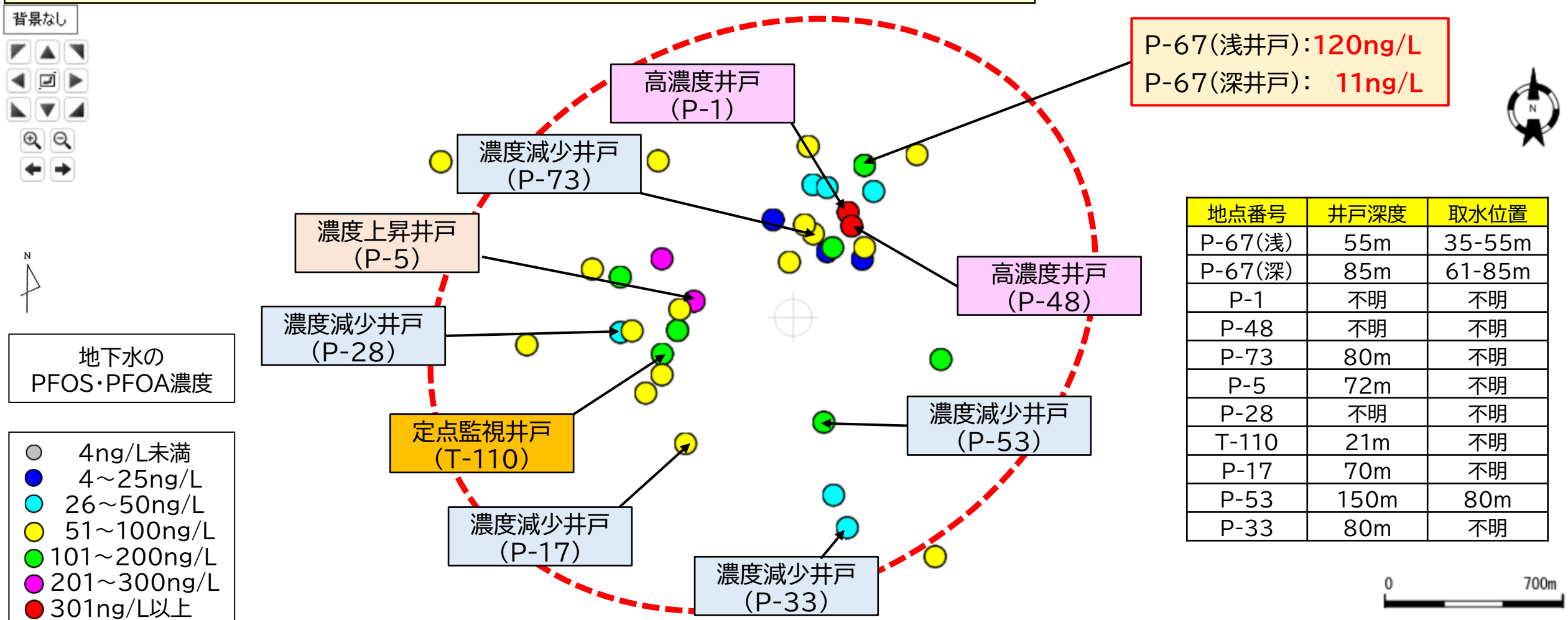


※ 上図は令和5年3月15日から令和7年12月23日までの調査結果

1. 地下水 （2）継続モニタリング【高濃度検出地域】

■ 高濃度検出地域のPFOS・PFOA濃度変動（今回（令和8年5月）調査分）

※ 個人所有井戸の詳細な位置情報は、熊本市情報公開条例第7条第2号に該当するため非公開



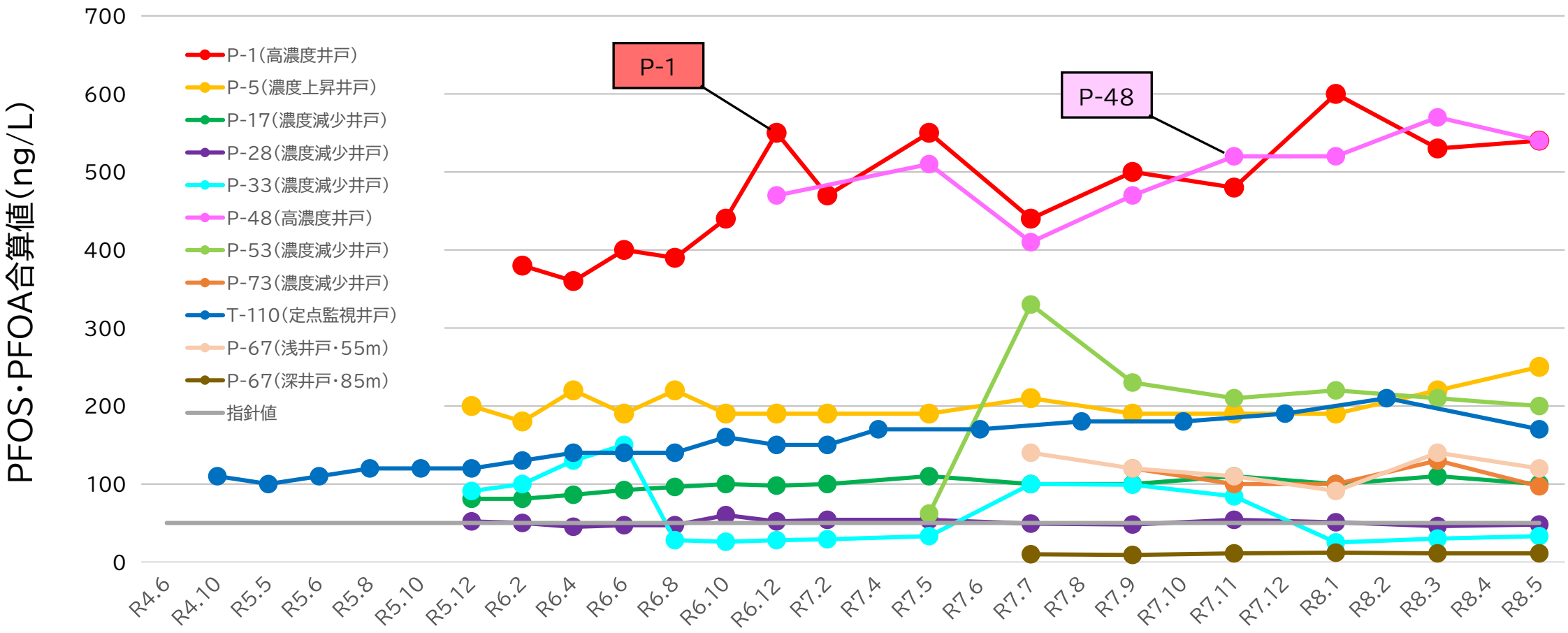
地点番号	井戸深度	取水位置
P-67（浅）	55m	35-55m
P-67（深）	85m	61-85m
P-1	不明	不明
P-48	不明	不明
P-73	80m	不明
P-5	72m	不明
P-28	不明	不明
T-110	21m	不明
P-17	70m	不明
P-53	150m	80m
P-33	80m	不明

※「濃度上昇井戸」、「濃度減少井戸」は、前回（令和7年12月）調査結果と比較したもの。

※ 上図は高濃度検出地域の継続モニタリング井戸の調査結果

1. 地下水 （2）継続モニタリング【高濃度検出地域】

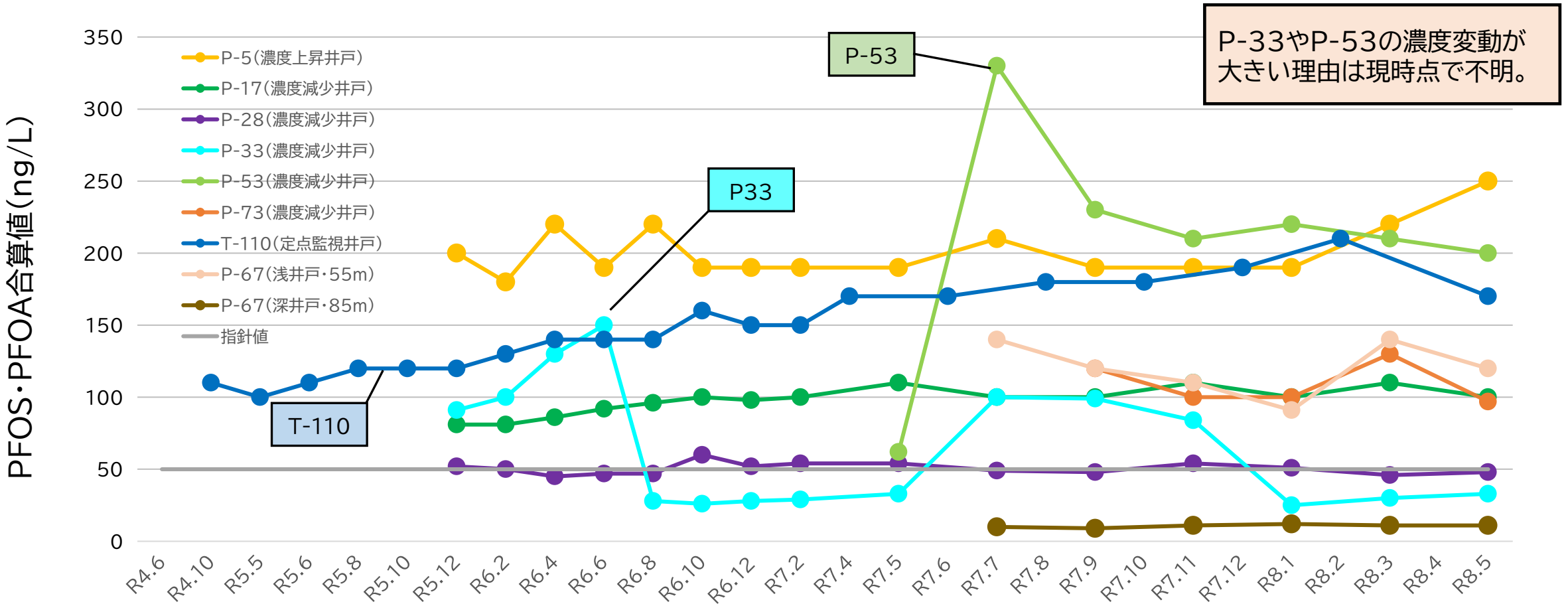
■ 高濃度検出地域のPFOS・PFOA濃度の推移（令和4年10月～令和8年5月）



- 高濃度検出地域のうち、最も濃度が高いP-1（井戸深度：不明）やP-48（井戸深度：不明）の井戸では長期的には濃度上昇傾向がみられる。

1. 地下水 （2）継続モニタリング【高濃度検出地域】

■ 高濃度検出地域のPFOS・PFOA濃度の推移（令和4年10月～令和8年5月）



- T-110（井戸深度：21m）の井戸でも長期的には濃度上昇傾向がみられる。
- P-33（井戸深度：80m）やP-53（井戸深度：150m）の井戸では比較的大きな濃度変動がみられる。

1. 地下水 （3）原因究明調査

■ 原因究明調査の概要について

○ 要調査項目PFAS調査

本市では、令和4年度から要監視項目のPFOS・PFOA、令和6年度から要調査項目のPFHxSの調査を実施してきた。令和7年9月に、国が新たに要調査項目としてPFAS7物質を追加したことから、本市のPFOS・PFOAの指針値超過の原因究明の一環として、**要調査項目PFAS7物質**の調査を実施した。

要調査項目・・・

人の健康などに有害なおそれがあるものの、環境リスクが比較的大きくない、または環境リスクが不明であるが環境中の検出状況等からみて**環境リスクの知見の集積が必要な物質**。

○ 井戸水位及び井戸深度の詳細調査

高濃度検出地域のモニタリング井戸等を対象に、井戸水位及び井戸深度の調査を実施した。ただし、モニタリング井戸等が市民所有井戸であり可能な範囲での調査に限られたこと、多くの井戸が金属製蓋により閉口されていたことから、一部の井戸水位及び井戸深度調査に留まった。

（調査井戸：35本 ➡ 水位判明井戸：8本　深度判明井戸：4本）

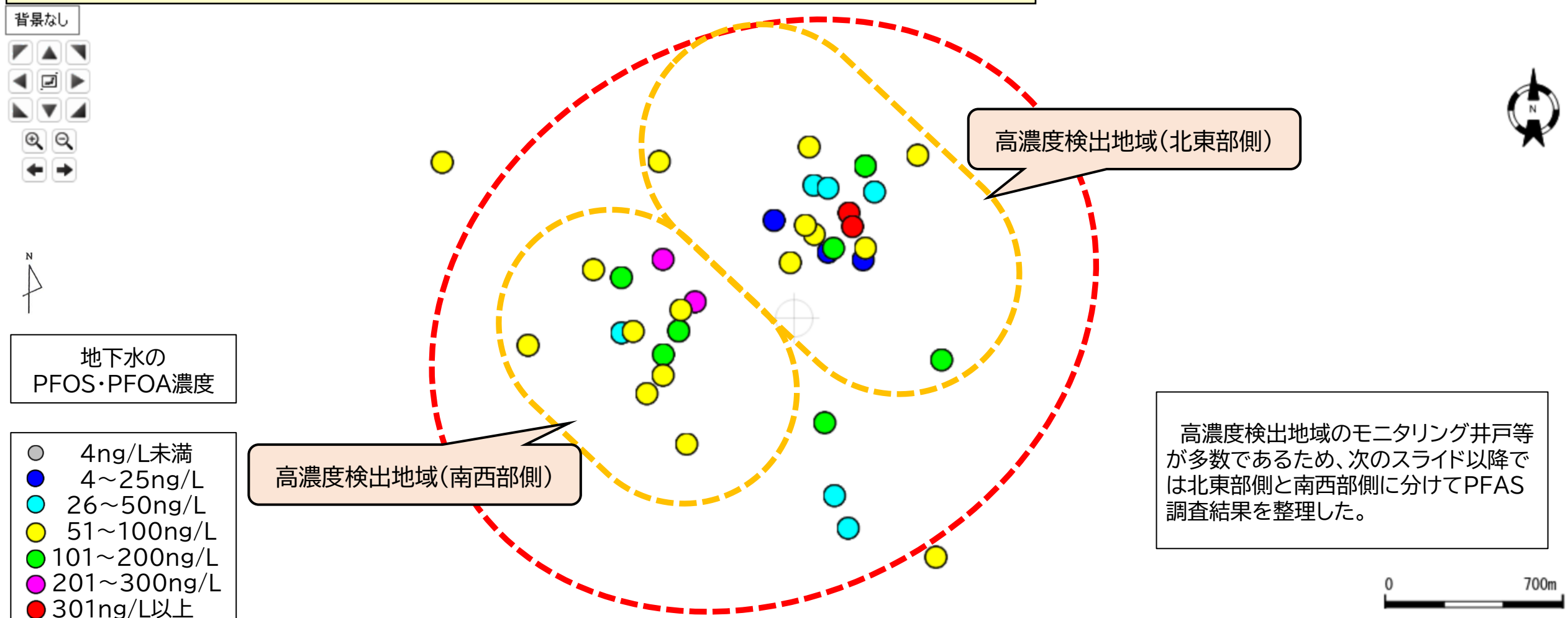


モニタリング井戸等の状況（金属製蓋で閉口）

1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域】

■ 高濃度検出地域のPFAS調査地点

※ 個人所有井戸の詳細な位置情報は、熊本市情報公開条例第7条第2号に該当するため非公開



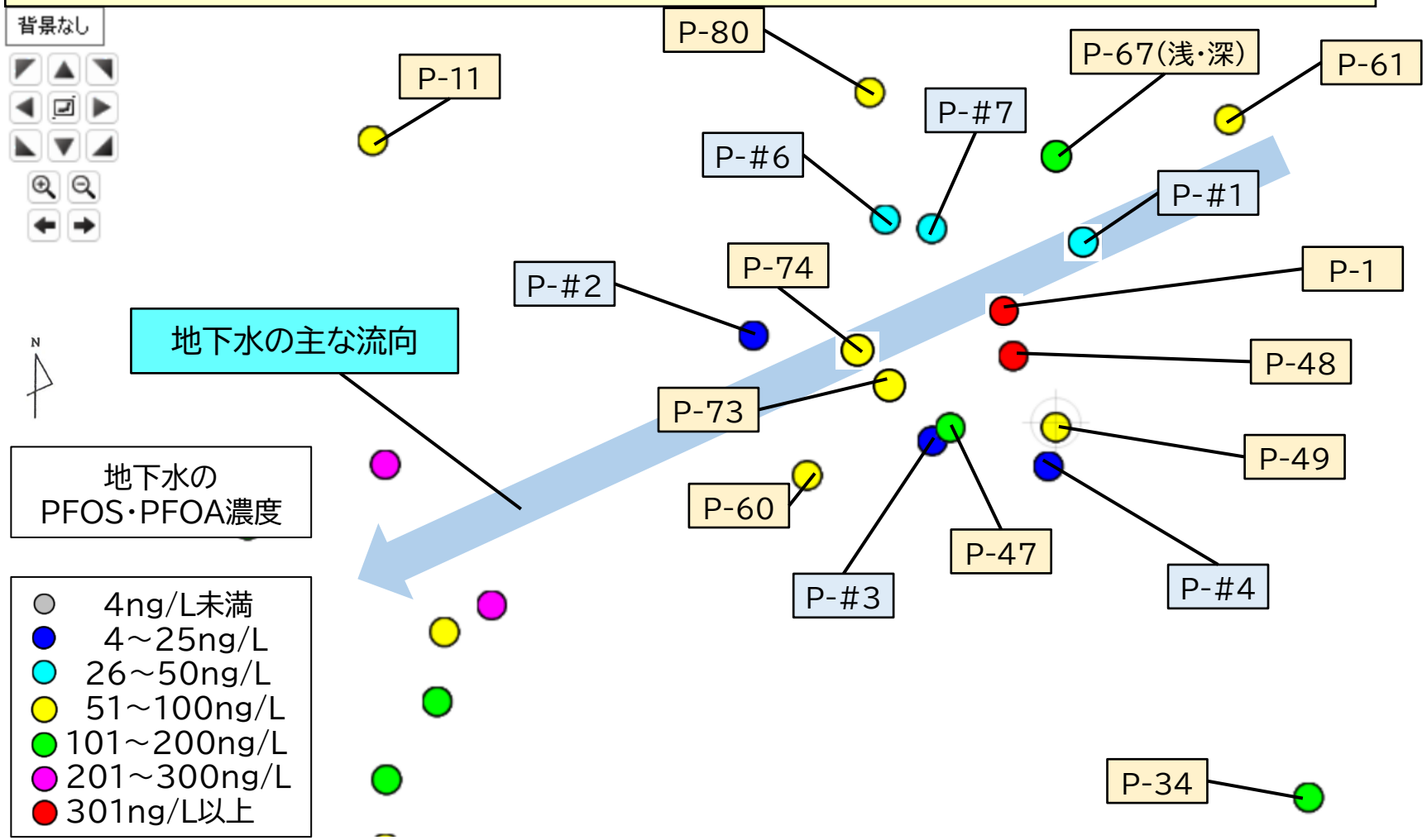
※ 上図は高濃度検出地域の継続モニタリング井戸の調査結果

1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域(北東部側)】

■ 高濃度検出地域(北東部側)のPFAS調査地点

今回の調査によって水位や深度が判明した井戸が少なく指針値超過、指針値以下との関係の評価は難しい。

※ 個人所有井戸の詳細な位置情報は、熊本市情報公開条例第7条第2号に該当するため非公開



地点番号	井戸深度	取水位置	（井戸水位）
P-61	30m	不明	16m
P-67(浅)	55m	35-55m	－
P-67(深)	85m	61-85m	－
P-#1	76m	不明	－
P-80	不明	不明	－
P-#7	不明	不明	－
P-#6	不明	不明	－
P-1	不明	不明	－
P-48	不明	不明	12m
P-49	不明	不明	－
P-#4	不明	不明	－
P-47	70m	5-10m	－
P-#3	不明	不明	8m
P-74	29m	不明	13m
P-73	80m	不明	—
P-#2	75m	不明	－
P-60	不明	不明	—
P-11	100m	不明	－
P-34	不明	不明	12m

太字・下線は井戸水位・井戸深度調査で確認したもの。

0 300m

※「P-○○」は過去にPFOS・PFOAが指針値を超過した井戸。「P-＃○」は過去にPFOS・PFOAが指針値を超過していない井戸（指針値超過井戸の比較用井戸）。

1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域(北東部側)】

■ 高濃度検出地域(北東部側)のPFAS調査結果一覧

※ 表内は濃度に応じてデータバーで表示
【単位:ng/L】

地点番号	井戸深度	取水位置	PFBS (C=4)	PFBA (C=4)	PFPeA (C=5)	PFHxS (C=6)	PFHxA (C=6)	PFHpA (C=7)	PFOS (C=8)	PFOA (C=8)	PFNA (C=9)	HFPO-DA
P-61	30m	不明	2未満	21	75	2未満	100	86	2未満	71	19	4未満
P-67(浅)	55m	35-55m	2未満	4未満	46	2未満	87	100	2未満	120	75	4未満
P-67(深)	85m	61-85m	2未満	4未満	10	2未満	21	20	2未満	9	3	4未満
P-#1	76m	不明	2未満	4未満	16	2未満	33	46	2未満	38	12	4未満
P-80	不明	不明	2未満	4	30	2未満	48	43	2未満	74	47	4未満
P-#7	不明	不明	2未満	37	97	2未満	110	48	2未満	38	17	4未満
P-#6	不明	不明	2未満	37	97	2未満	110	48	2未満	38	17	4未満
P-1	不明	不明	2未満	180	480	2未満	650	320	2未満	540	160	4未満
P-48	不明	不明	2未満	180	430	2未満	620	280	2未満	530	140	4未満
P-49	不明	不明	2未満	4	20	2未満	44	53	2未満	79	24	4未満
P-#4	不明	不明	2未満	4未満	6	2未満	10	13	2未満	11	3	4未満
P-47	70m	5-10m	2未満	36	110	2未満	180	110	2未満	120	35	4未満
P-#3	不明	不明	2未満	5	10	2未満	18	12	2未満	12	4	4未満
P-74	29m	不明	2未満	4未満	13	2未満	24	30	2未満	71	11	4未満
P-73	80m	不明	2未満	4未満	14	2未満	28	40	2未満	95	24	4未満
P-#2	75m	不明	2未満	9	37	2未満	58	25	2未満	18	15	4未満
P-60	不明	不明	2未満	69	190	2未満	260	120	2未満	70	5	4未満
P-11	100m	不明	2未満	18	51	2未満	88	77	2未満	71	9	4未満
P-34	不明	不明	10	86	290	2未満	340	160	2未満	130	81	4未満

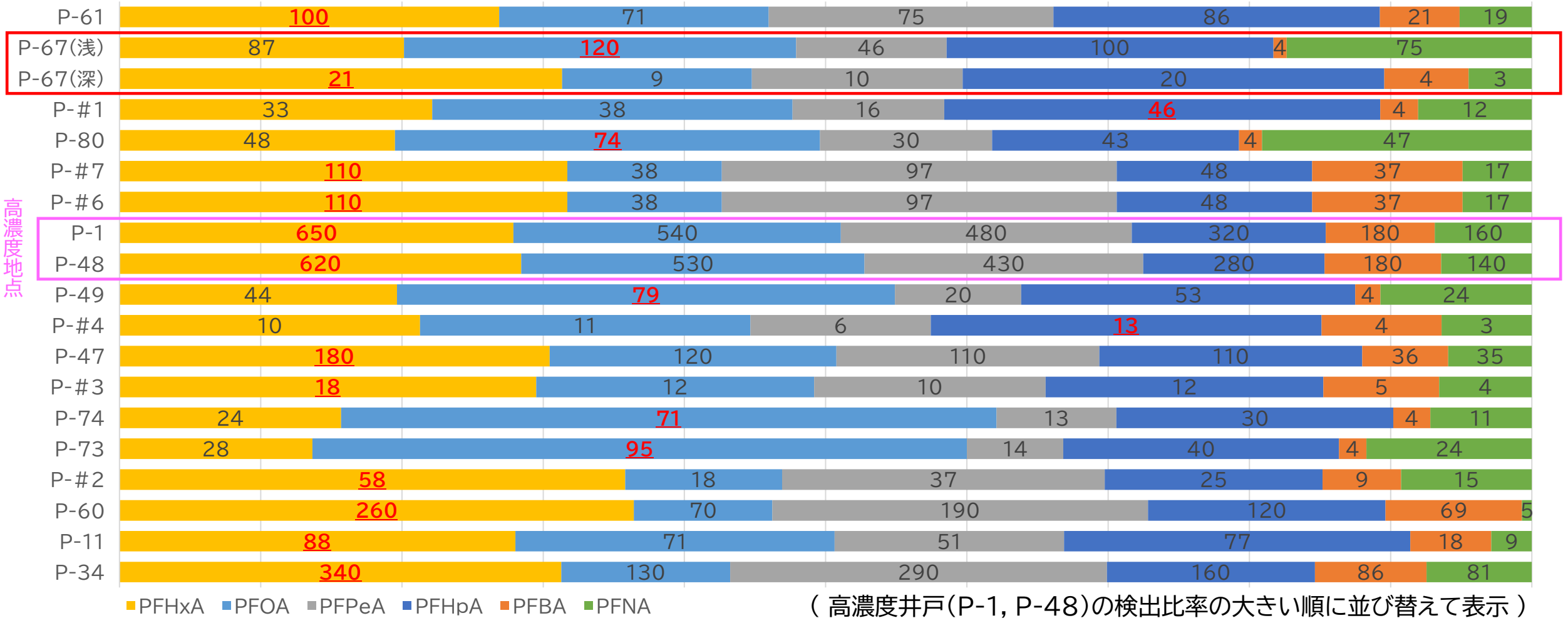
- 多くの地点でPFSAs(C=4,6,8)がほとんど検出されず、PFCAs※(C=4~9)が検出されている。

※ ペルフルオロアルキルカルボン酸類:$C_nF_{(2n+1)}CO_2H$の化合物でPFBA、PFPeA、PFHxA、PFHpA、PFOA、PFNA等が該当。

1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域(北東部側)】

■ 高濃度検出地域(北東部側)の各地点のPFCAs6物質の検出比率

各地点の最大濃度：**赤字・太字**



（ 高濃度井戸(P-1, P-48)の検出比率の大きい順に並び替えて表示 ）

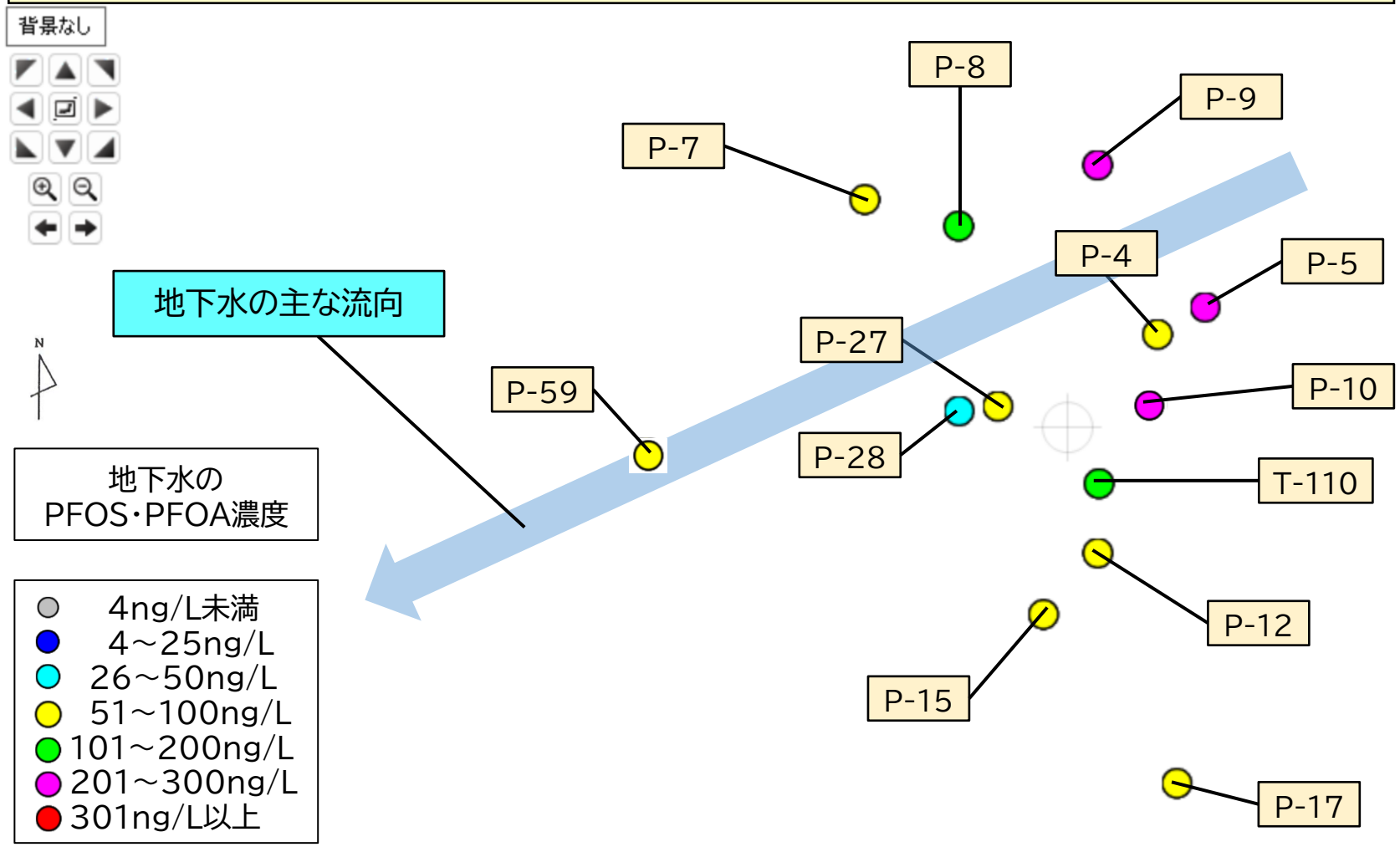
- 各地点で比較的類似の検出比率を示している一方、各地点の最高濃度のPFCAsの種類は異なる。
- 同地点(P-67)の浅井戸(第一帯水層)と深井戸(第二帯水層)では、PFAS濃度及びPFCAsの組成は異なる。

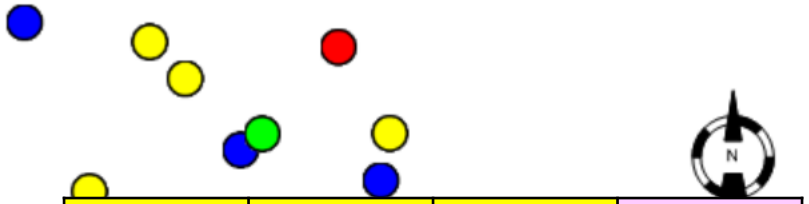
1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域(南西部側)】

■ 高濃度検出地域(南西部側)のPFAS調査地点

今回の調査によって水位や深度が判明した井戸が少なく指針値超過、指針値以下との関係の評価は難しい。

※ 個人所有井戸の詳細な位置情報は、熊本市情報公開条例第7条第2号に該当するため非公開





地点番号	井戸深度	取水位置	（井戸水位）
P-9	不明	不明	—
P-5	72m	不明	**34m**
P-4	100m	45m	—
P-10	不明	不明	—
P-8	**45m**	不明	**38m**
P-7	120m	不明	—
P-27	40m	不明	—
P-28	不明	不明	—
T-110	**21m**	不明	**13m**
P-12	40m	21m	—
P-15	40-50m	不明	—
P-59	50m	不明	—
P-17	70m	不明	—

太字・下線は井戸水位・井戸深度調査で確認したもの。



※「P-○○」は過去にPFOS・PFOAが指針値を超過した井戸。

1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域(南西部側)】

■ 高濃度検出地域(南西部側)のPFAS調査結果一覧

※ 表内は濃度に応じてデータバーで表示

【単位:ng/L】

地点番号	井戸深度	取水位置	PFBS (C=4)	PFBA (C=4)	PFPeA (C=5)	PFHxS (C=6)	PFHxA (C=6)	PFHpA (C=7)	PFOS (C=8)	PFOA (C=8)	PFNA (C=9)	HFPO-DA
P-9	不明	不明	4	39	140	2未満	260	160	2未満	220	230	4未満
P-5	72m	不明	2未満	40	170	2未満	310	360	2未満	250	34	4未満
P-4	100m	45m	2未満	34	120	2未満	200	150	2未満	100	69	4未満
P-10	不明	不明	2未満	120	330	2未満	420	150	2未満	200	260	4未満
P-8	45m	不明	4	32	130	2未満	220	150	2未満	170	130	4未満
P-7	120m	不明	2未満	8	33	2未満	59	56	2未満	100	52	4未満
P-27	40m	不明	2未満	8	39	2未満	71	68	2未満	88	32	4未満
P-28	不明	不明	2未満	8	23	2未満	40	37	2未満	46	56	4未満
T-110	21m	不明	2未満	11	51	2未満	100	110	2未満	160	52	4未満
P-12	40m	21m	2未満	45	140	2未満	180	92	2未満	100	50	4未満
P-15	40-50m	不明	2未満	41	140	2未満	160	78	2未満	85	66	4未満
P-59	50m	不明	2未満	170	390	2未満	420	110	2未満	83	39	4未満
P-17	70m	不明	4	74	250	2未満	290	100	2未満	100	25	4未満

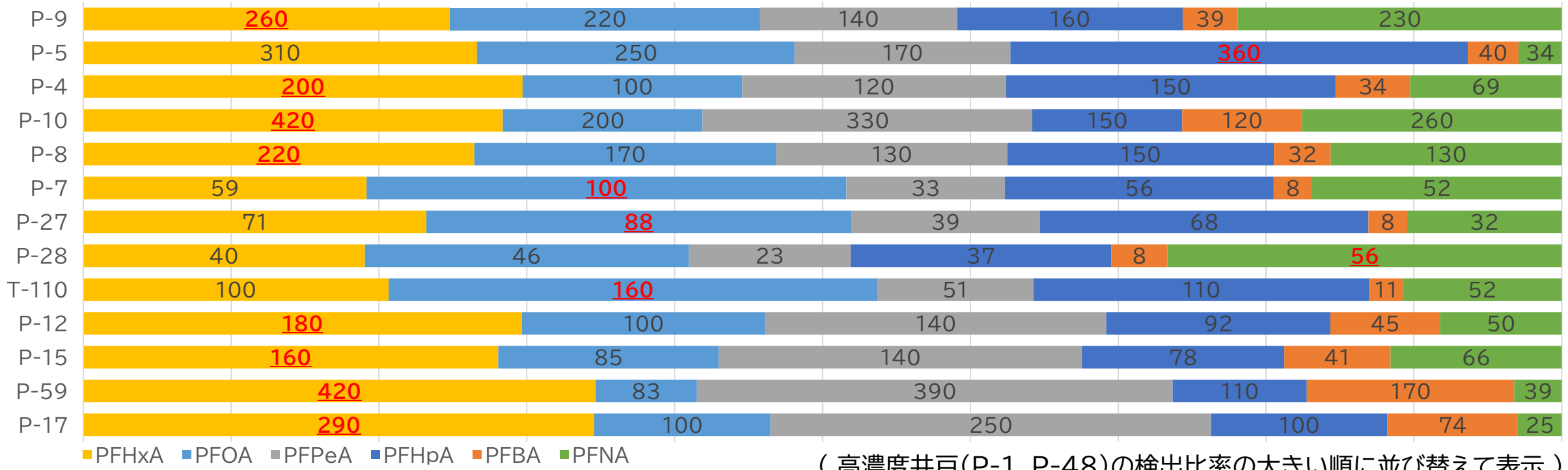
- 北東部側と同様に、多くの地点でPFSAs※(C=4,6,8)がほとんど検出されず、PFCAs(C=4~9)が検出されている。
- 北東部側と南西部では、全ての地点でPFOAの代替物質であるHFPO-DAは4未満である。

※ ペルフルオロスルホン酸類:$C_nF_{(2n+1)}SO_3H$の化合物でPFBS、PFHxS、PFOS等が該当。

1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域(南西部側)】

■ 高濃度検出地域(南西部側)の各地点のPFCAs6物質の検出比率

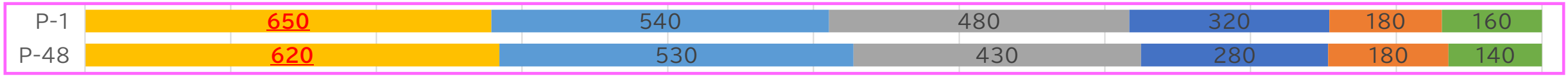
各地点の最大濃度：**赤字・太字**



（ 高濃度井戸(P-1, P-48)の検出比率の大きい順に並び替えて表示 ）

参考：高濃度地点(高濃度検出地域(北東部側))の各地点のPFCAs6物質の検出比率

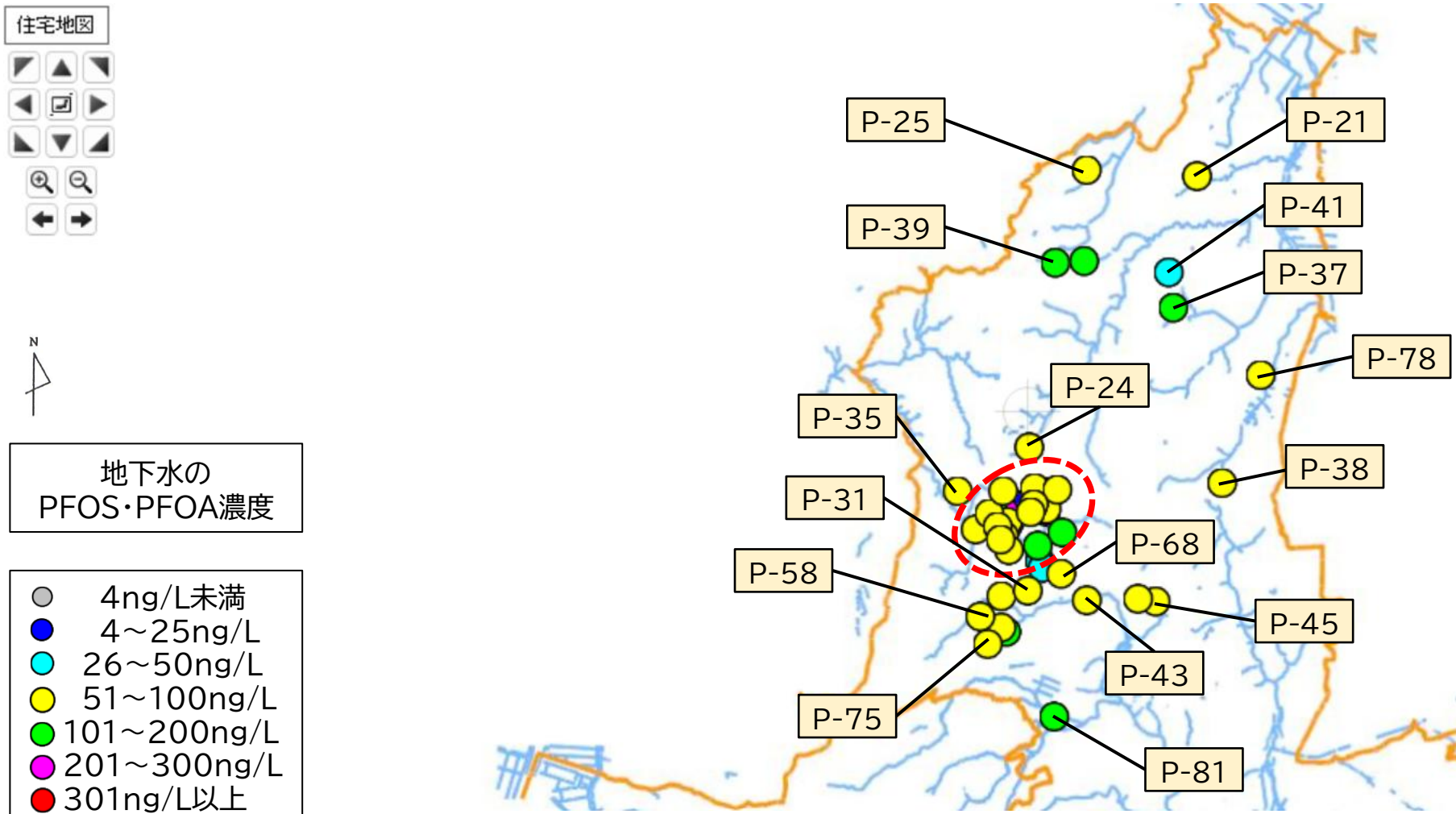
高濃度地点



- 北東部側と同様に、P-28(井戸深度：不明)以外は各地点で比較的類似の検出比率を示している。
  (北東部側と南西部側のうち、P-28(井戸深度：不明)のみ最高濃度のPFCAs がPFNAである。)
- 北東部側と同様に、各地点の最高濃度のPFCAsの種類は異なる。

1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域以外の地域】

■ 高濃度検出地域以外の地域のPFAS調査地点



：高濃度検出地域

地点番号	井戸深度	取水位置
P-25	40m	不明
P-21	120m	不明
P-39	60m	16-18m
P-41	80m	50m
P-37	不明	不明
P-78	20m	不明
P-24	45m	35-40m
P-35	不明	不明
P-38	43m	20m
P-31	50m	40-50m
P-68	72m	不明
P-58	90m	不明
P-75	20m	不明
P-43	不明	不明
P-45	不明	不明
P-81	不明	不明

1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域以外の地域】

■ 高濃度検出地域以外の地域のPFAS調査結果一覧

※ 表内は濃度に応じてデータバーで表示
【単位：ng/L】

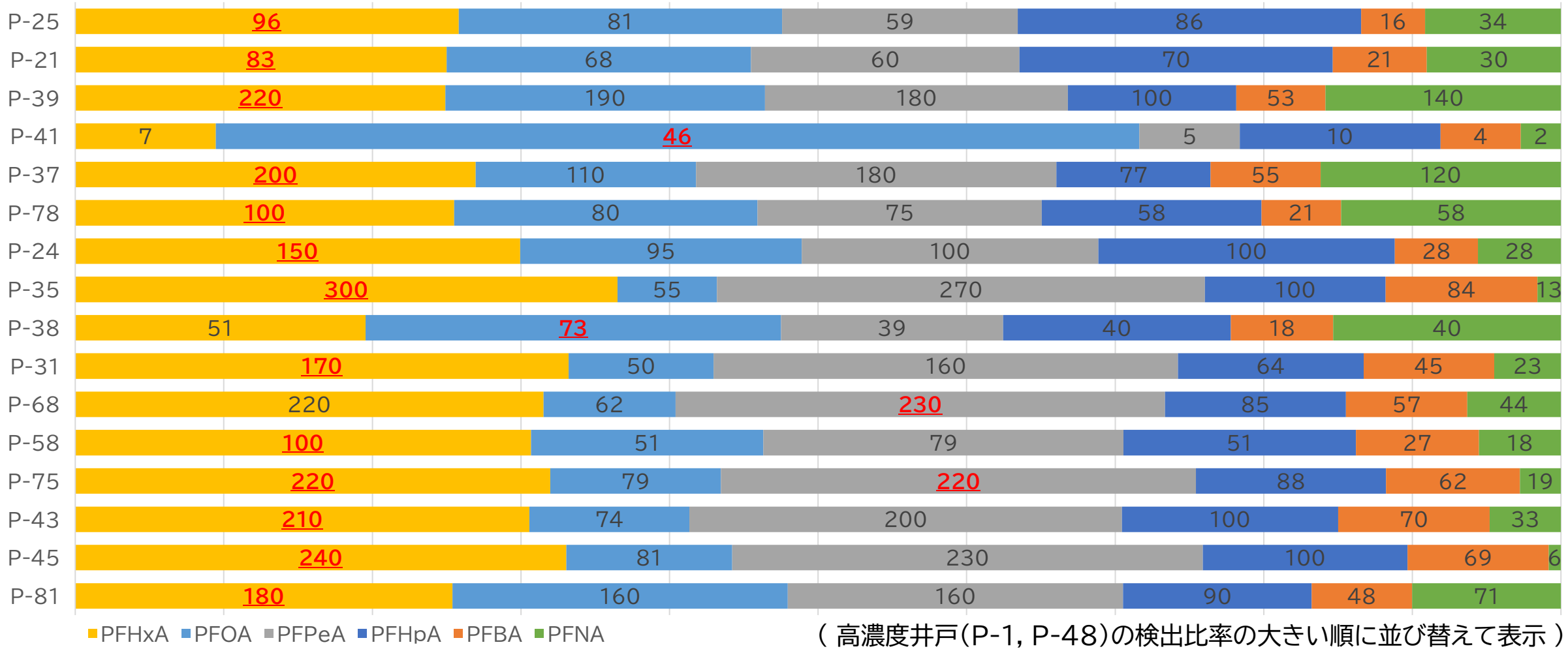
地点番号	井戸深度	取水位置	PFBS (C=4)	PFBA (C=4)	PFPeA (C=5)	PFHxS (C=6)	PFHxA (C=6)	PFHpA (C=7)	PFOS (C=8)	PFOA (C=8)	PFNA (C=9)	HFPO-DA
P-25	40m	不明	2未満	16	59	2未満	96	86	2未満	81	34	4未満
P-21	120m	不明	2未満	21	60	2未満	83	70	2未満	68	30	4未満
P-39	60m	16-18m	8	53	180	2未満	220	100	2未満	190	140	4未満
P-41	80m	50m	2未満	4未満	5	2未満	7	10	2未満	46	2未満	4未満
P-37	不明	不明	2未満	55	180	2未満	200	77	2	110	120	4未満
P-78	20m	不明	2未満	21	75	2未満	100	58	2未満	80	58	4未満
P-24	45m	35-40m	2未満	28	100	2未満	150	100	2未満	95	28	4未満
P-35	不明	不明	2未満	84	270	2未満	300	100	2未満	55	13	4未満
P-38	43m	20m	2未満	18	39	2未満	51	40	2未満	73	40	4未満
P-31	50m	40-50m	2未満	45	160	2未満	170	64	2未満	50	23	4未満
P-68	72m	不明	2未満	57	230	2未満	220	85	2未満	62	44	4未満
P-58	90m	不明	2未満	27	79	2未満	100	51	2未満	51	18	4未満
P-75	20m	不明	2未満	62	220	2未満	220	88	2未満	79	19	4未満
P-43	不明	不明	2未満	70	200	2未満	210	100	2未満	74	33	4未満
P-45	不明	不明	2未満	69	230	2未満	240	100	2未満	81	6	4未満
P-81	不明	不明	2未満	48	160	2未満	180	90	3	160	71	4未満

- 植木地区周辺では、高濃度検出地域に限らず、多くの地点でPFSAs(C=4,6,8)がほとんど検出されず、PFCAs(C=4～9)が検出されている。

1. 地下水 （3）原因究明調査【高濃度検出地域以外の地域】

■ 高濃度検出地域以外の地域の各地点のPFCAs6物質の検出比率

各地点の最大濃度：**赤字・太字**



（ 高濃度井戸（P-1, P-48）の検出比率の大きい順に並び替えて表示 ）

- 植木地区周辺では、高濃度検出地域に限らず、P-41（井戸深度：80m）を除き、各地点で比較的類似の検出比率を示している。

1. 地下水 （3）原因究明調査【参考情報】

（参考）諸外国における飲料水に係る規制状況

出典）環境省取りまとめ資料抜粋

国名等	目標値等(ng/L)			設定年	遵守開始年	法的拘束力の有無	備考
	PFOS	PFOA	PFAS類				
日本	50 (PFOS･PFOAの合算)		－	2025	2026	有 (水道法)	
米国	4	4	**1.0** **(ハザード指数※)**	**2024**	**2031**	**有**	
EU	－	－	総PFAS:500 20PFAS:100	2020	2026	有	
英国	－	－	48PFAS:100	2025	2025	有	
ドイツ	－	－	20PFAS:100 **4PFAS:20**	2023	2026 **2028**	有	･20PFAS:C＝4～13の各PFSA及びPFCA ･**4PFAS:PFOS、PFOA、PFNA、PFHxS**
カナダ	－	－	25PFAS:30	2024	－	有	
オーストラリア	8	200	PFHxS:30 PFBS:1000	2025	－	有	

※ PFHxS、PFNA、HFPO-DA、PFBSの濃度を健康に影響がないとされる濃度（それぞれ10ng/L, 10ng/L, 10ng/L, 2000ng/L）で割って足した数値

- 一部の諸外国で採用されている目標値等を参考にした場合には、PFNAの目標値等（10ng/L）を超過している地点も確認されるため、引き続き注視していく。

1. 地下水 （4）まとめ

■ 今回の調査に関するまとめ

○ 高濃度検出地域の継続モニタリング

- 高濃度検出地域のうち、最も濃度が高いP-1やP-48、定点監視井戸であるT-110の井戸では長期的には濃度上昇傾向がみられる。
- P-33やP-53の井戸では比較的大きな濃度変動がみられる。

⇒ 継続モニタリングと濃度変動が大きな井戸の要因分析及び周辺調査を行う

○ 原因究明調査

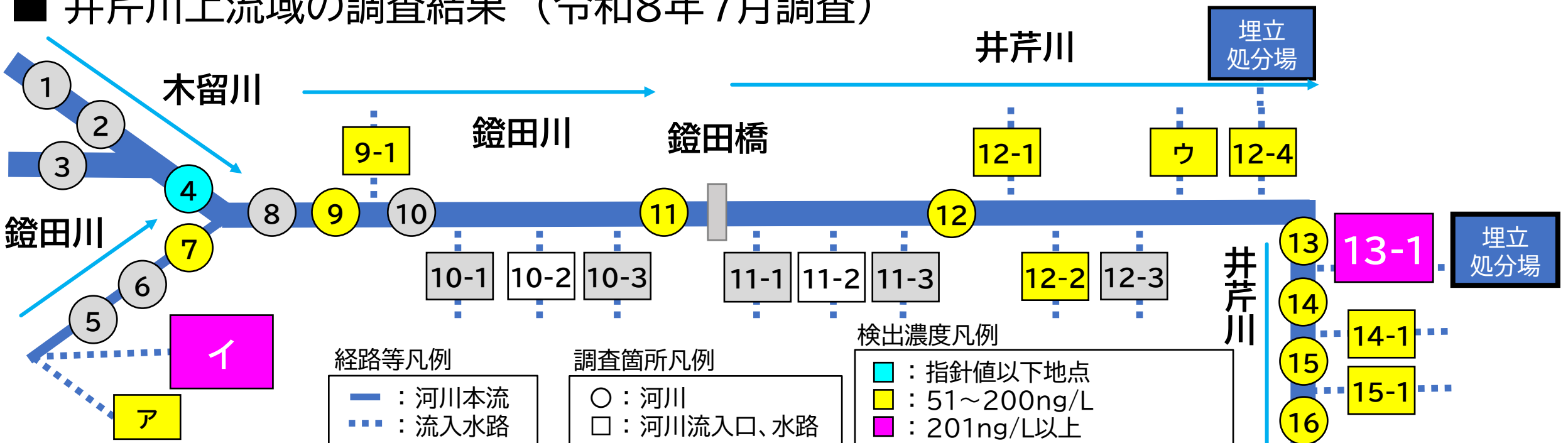
- PFOS・PFOA、PFHxSに加え、新たに要調査項目PFAS7物質を調査した結果、植木地区周辺では、高濃度検出地域に限らず、多くの地点でPFSAs(C=4,6,8)がほとんど検出されず、PFCAs(C=4~9)が検出されており、各地点で比較的類似の検出比率を示している。
- 同地点(P-67)の浅井戸(第一帯水層)と深井戸(第二帯水層)では、PFAS濃度及びPFCAsの組成が異なる。
- 一部の諸外国で採用されている目標値等を参考にした場合には、PFNAの目標値等(10ng/L)を超過している地点も確認されるため、引き続き注視していく。

⇒ 植木地区周辺の汚染原因が共通している可能性があるため、引き続き調査を行う

2. 公共用水域（井芹川上流域）の継続調査結果

2. 公共用水域 （1）調査結果概要

■ 井芹川上流域の調査結果 （令和8年7月調査）



※ 上図の検出濃度凡例は令和8年4月21日の調査結果によるもの。
（令和8年度はモニタリング計画に基づき、検査地点を見直しを調査を実施（年4回））

○ 各調査箇所のPFOS・PFOA濃度（ng/L）

9-1	11-1	11-2	11-3	13-1	15-1
72		欠測		280	53

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
木留川				鐙田川							井芹川				
			35			61		80		82	90	89	110	95	77

ア	イ
80	310

10-1	10-2	10-3
	欠測	

12-1	12-2	12-3	ウ	12-4	14-1
67	110		110	100	59

赤字：指針値50ng/L超過

2. 公共用水域 （2）継続モニタリング

■井芹川上流域のPFOS・PFOAの濃度推移

PFOS・PFOAの合計値(単位:ng/L)

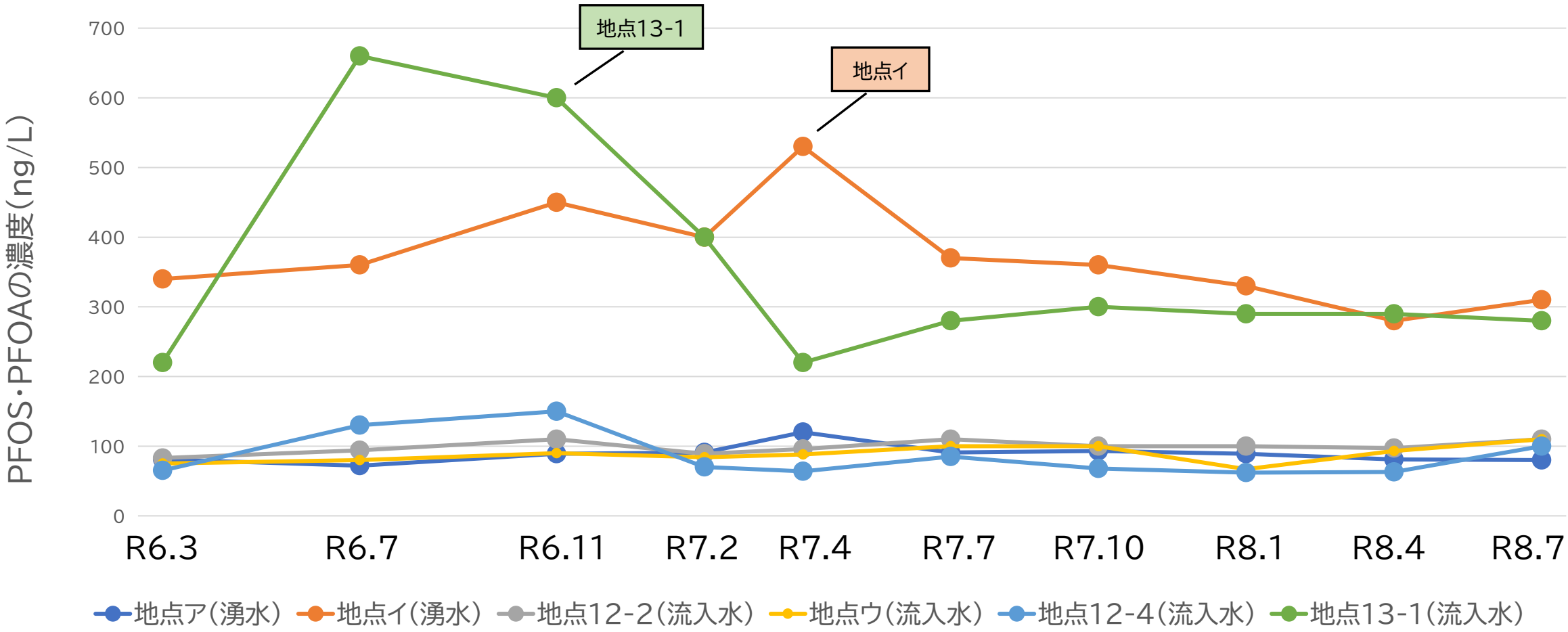
	1	2	3	4	ア	イ	5	6	7	8	9	9-1	10	10-1	10-2	10-3	11
	木留川				鐙田川（流入水路含む。）												
R6.3.1	4未満	70	9	35	81	**340**	60	56	53	26	17	21	47	—	89	75	63
R6.7.9	—	73	18	24	72	**360**	61	73	—	—	52	53	—	—	—	—	64
R6.11.6	—	—	15	18	89	**450**	64	69	66	51	55	42	66	—	100	98	84
R7.2.3	6	48	15	23	91	**400**	82	53	52	38	—	20	62	—	92	99	75
R7.4.22	—	47	15	22	120	**530**	58	65	49	58	71	26	72	—	100	98	88
R7.7.25	—	59	50	33	91	**370**	120	180	110	50	63	62	72	—	—	—	76
R7.10.23	—	47	10	21	93	**360**	130	93	65	38	36	—	64	—	110	120	69
R8.1.8	—	69	—	64	89	**330**	87	56	55	68	62	29	69	—	98	93	82
R8.4.21				22	81	**280**			51		30	25			89		82
R8.7.22				35	80	**310**			61		80	72			—		82

	11-1	11-2	11-3	12	12-1	12-2	12-3	ウ	12-4	13	13-1	14	14-1	15	15-1	16
	井芹川（流入水路含む。）															
R6.3.1	84	83	80	66	17	83	17	75	65	65	**220**	60	10	62	23	51
R6.7.9	—	—	—	63	68	94	—	—	130	92	**660**	130	54	96	38	87
R6.11.6	100	100	100	86	13	110	27	90	150	90	**600**	93	14	95	30	93
R7.2.3	97	96	95	77	12	89	24	84	70	68	**400**	70	9	72	25	60
R7.4.22	100	100	100	86	10	96	23	88	64	77	**220**	82	10	72	25	72
R7.7.25	—	—	—	74	93	110	27	100	85	86	**280**	98	43	94	68	63
R7.10.23	100	110	100	96	13	100	21	100	68	75	**300**	81	16	78	26	79
R8.1.8	99	100	96	73	13	100	21	67	62	72	**290**	84	9	73	19	72
R8.4.21		96		85	13	97		93	63	60	**290**	66	10	64	24	54
R8.7.22		—		90	67	110		110	100	89	**280**	110	59	95	53	77

- 埋立処分場の放流水が含まれる地点13-1など一部の流入水を除き、濃度はほぼ一定である。

2. 公共用水域 （2）継続モニタリング

■ 井芹川上流域のPFOS･PFOAの濃度推移



- 埋立処分場の放流水が含まれる地点13-1は過去の変動は大きかったが、現在、横ばい傾向。
- 地点イ(湧水)は比較的高濃度のまま推移している。

2. 公共用水域 （3）原因究明調査

■ 原因究明調査の概要について

○ 要調査項目PFAS調査

地下水のPFOS・PFOAと同様に、公共用水域（井芹川上流域）のPFOS・PFOAの指針値超過の原因究明の一環として、**要調査項目PFAS7物質**の調査を実施した。

また、植木地区の地下水と公共用水域の水質の違いを比較するため、地下水と公共用水域の要調査項目PFASの検出状況を比較した。

○ 河川本流及び流入水路の流量調査

PFOS・PFOAの指針値を超過した河川流入水の河川本流への寄与度を把握するため、河川本流及び河川流入水の流量調査を実施した。

（河川本流9地点中5地点、河川流入水12地点中10地点）

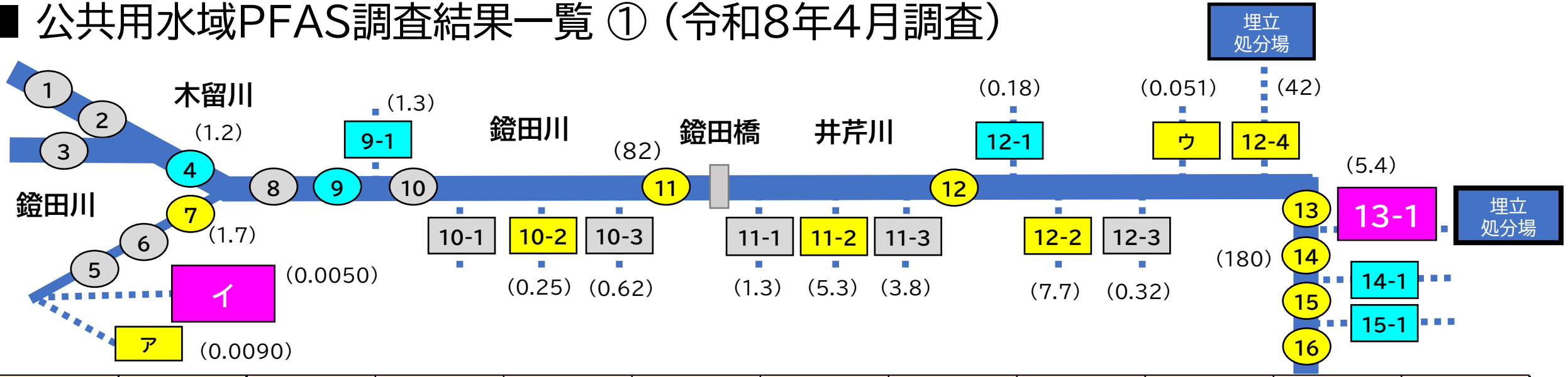


流量調査の様子（容積法）

2. 公共用水域 （3）原因究明調査

( )内は地点ごとの流量単位：【L/s】

■ 公共用水域PFAS調査結果一覧 ①（令和8年4月調査）



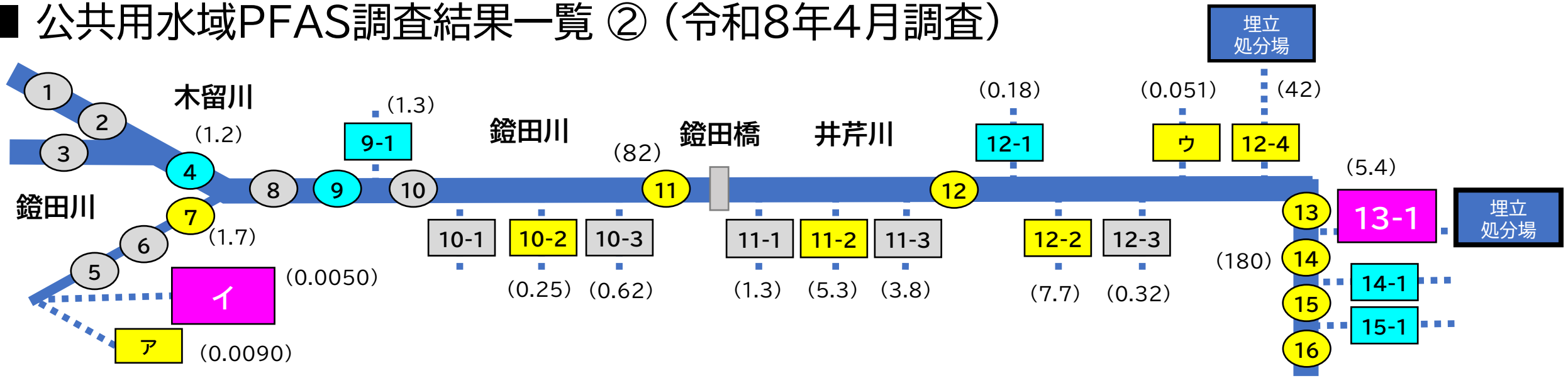
地点番号	流量 [L/s]	PFBS (C=4)	PFBA (C=4)	PFPeA (C=5)	PFHxS (C=6)	PFHxA (C=6)	PFHpA (C=7)	PFOS (C=8)	PFOA (C=8)	PFNA (C=9)	HFPO-DA
4	1.2	2未満	16	41	2未満	53	18	2未満	20	11	4未満
ア	0.009	2未満	25	64	2未満	79	44	2未満	79	32	4未満
イ	0.005	2未満	95	220	2未満	260	98	2未満	280	110	4未満
7	1.7	2未満	35	91	2未満	100	27	2未満	49	23	4未満
9	（測定なし）	2未満	33	100	2未満	100	26	2未満	28	16	4未満
9-1	1.3	2未満	25	78	2未満	110	34	2未満	23	8	4未満
10-2	0.25	2未満	78	220	2未満	240	94	2未満	87	39	4未満
11	82	2未満	74	200	2未満	220	84	2未満	80	37	4未満
ウ	0.051	2	86	230	2未満	260	100	2未満	91	42	4未満
11-2	5.3	2	100	300	2未満	330	120	2未満	94	43	4未満

- 地下水と同様に、多くの地点でPFSAs(C=4,6,8)がほとんど検出されず、PFCAs(C=4~9)が検出されている。

2. 公共用水域 （3）原因究明調査

( )内は地点ごとの流量単位：【L/s】

■ 公共用水域PFAS調査結果一覧 ②（令和8年4月調査）



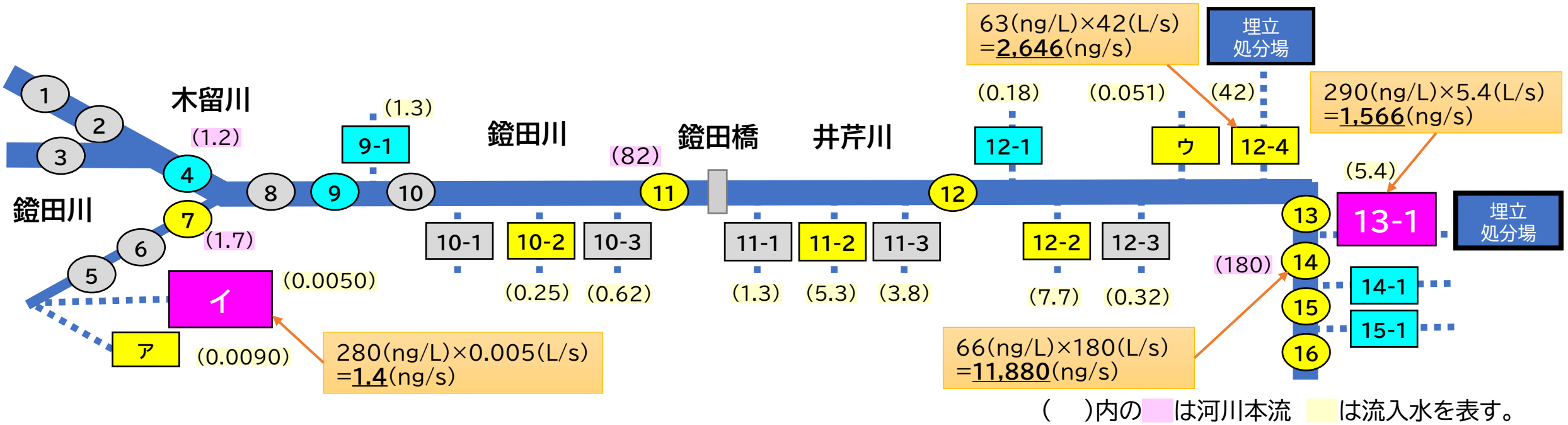
地点番号	流量 [L/s]	PFBS (C=4)	PFBA (C=4)	PFPeA (C=5)	PFHxS (C=6)	PFHxA (C=6)	PFHpA (C=7)	PFOS (C=8)	PFOA (C=8)	PFNA (C=9)	HFPO-DA
12	(測定なし)	2未満	73	210	2未満	230	86	2未満	83	36	4未満
12-1	0.18	2未満	9	15	2未満	18	12	2未満	11	5	4未満
12-2	7.7	2	94	260	2未満	300	100	2未満	95	56	4未満
12-4	42	330	74	100	3	100	48	4	59	10	4未満
13	(測定なし)	35	60	150	2未満	170	63	2未満	58	24	4未満
13-1	5.4	120	210	710	9	580	310	30	260	34	4未満
14	180	39	63	180	2未満	180	72	2未満	64	25	4未満
14-1	(測定なし)	2未満	8	28	2未満	29	12	2未満	8	3	4未満
15	(測定なし)	36	60	160	2未満	180	69	2未満	62	24	4未満
15-1	(測定なし)	2未満	9	10	2未満	13	15	7	17	5	4未満
16	(測定なし)	28	52	130	2未満	140	55	2未満	52	21	4未満

- 埋立処分場の放流水が含まれる流入水(地点12-4,13-1)は、他の水質と異なりPFSAs(C=4,6,8)が検出されている。

2. 公共用水域 （3）原因究明調査

( )内は地点ごとの流量単位：【L/s】

■ 河川本流及び流入水路の流量調査結果（令和8年4月調査）



- 比較的高濃度を示している地点ア(湧水)、イ(湧水)については、河川本流と比較して流量が非常に小さく(河川本流の約0.4%)、河川本流へのPFOS・PFOA負荷量は小さい。
- 埋立処分場の放流水が含まれる流入水(地点12-4, 13-1)については、地点12-4は比較的流量が大きく(河川本流の約24%)、地点13-1は小さい(河川本流の約3%)。河川本流へのPFOS・PFOA負荷量は地点イと比較し、大きい。

2. 公共用水域 （4）まとめ

■今回の調査に関するまとめ

○ 井芹川上流域の継続モニタリング

- 埋立処分場の放流水が含まれる地点13-1など一部の流入水を除き、濃度はほぼ一定である。
- 埋立処分場の放流水が含まれる地点13-1は過去の変動は大きかったが、現在、横ばい傾向。
- 地点イは比較的高濃度のまま推移している。

⇒ 継続モニタリングにより井芹川上流域の濃度変動の把握を行う

○ 原因究明調査（要調査項目PFAS）

- 地下水と同様に、多くの地点でPFSAs(C=4,6,8)がほとんど検出されず、PFCAs(C=4~9)が検出されている。
- 地下水及び公共用水域で類似したPFAS組成が確認された。
- 埋立処分場の放流水が含まれる流入水(地点12-4,13-1)は、他の水質と異なりPFSAs(C=4,6,8)が検出されている。

⇒ 地下水由来と埋立処分場由来の汚染と考えられるため、引き続き調査を行う

○原因究明調査（河川本流及び流入水路の流量調査）

- 比較的高濃度を示している地点ア(湧水)、イ(湧水)については、河川本流と比較して流量が非常に小さく(河川本流の約0.4%)、河川本流へのPFOS・PFOA負荷量は小さい。
- 埋立処分場の放流水が含まれる流入水(地点12-4, 13-1)については、地点12-4は比較的流量が大きく(河川本流の約24%)、地点13-1は小さい(河川本流の約3%)。河川本流へのPFOS・PFOA負荷量は地点イと比較し、大きい。